# カナダニ於ケル日本人移民制限問

ルミュー協約第二次改定交渉

五五〇 四月七日(着) 幣原外務大臣宛(電報)在オタワ松永総領事ヨリ

議提議及ビー定期間カナダ向移民へノ旅券発 キング首相ヨリ日本人移民数制限ニ関スル商

給停止方要請

第九号

四月二日「キング」首相ノ求メニ依リ往訪シタル処同首

ランコトヲ要求シ政府ノ処決ヲ迫ルコト愈々急切ナリ実 充分ナリトシ此際政府ニ於テ断乎タル更ニ制限ノ処置ヲ取 及六号)及四月一日「ニール」ノ演説(往電第七号)ニテ ル態度ハ「ニール」「マコーレー」等ノ質問(往電第 今期議会ニ於ケルB・C州選出議員ノ日本移民問題ニ関 モ推知セラルヘキ通リ現協約ニ依ル移民制限ヲ以テ甚タ不 一昨年ノ協約改訂ニテ労働者ノ入国数ヲ百五十人ニ制限ス 三号 ニ ス

終ルコト予期スルニ難カラサル処自分ハ斯ル事態ノ発生ヲ 何時議会ニ於テ猛烈ナル排日論ヲ勃発シ寒心スヘキ結果ニ テ現ニ相当ノ方法ヲ講シツツアルコトヲ示スニアラサレハ 挙ヲ行フヤモ計リ難ク遅クモ来年ハ之ヲ行フコトトナルニ 在リ加之国内政局ノ現況ヨリ見テ政府ハ二三ケ月後ニ総選 約ノ儘ニテハ到底議会ニ於ケル攻撃ヲ撃退シ得サル状況ニ テ言明シタル次第モアリ(客年往電第三六号)政府ハ現協 セラレ実際弁解ノ辞ナキニ苦シメリ且自分ハ昨年ノ議会ニ シテ増加ノ傾向ヲ示セリ此点ニテ該改訂ノ無効ナルヲ詰責 テハ移民入国数妻子ヲ合セ五六百名ニ達シ協約改訂前ニ比 アリ政府ノ立場ハ愈々困難ヲ加フルニ至レリ故ニ政府ニ於 C州議員提出ノ排斥政策ヲ支持スルニ決定セル様ノ次第モ 度ヲ定メツツアル処日本移民問題ニ付テハ最近各党共B・ 付目下各政党トモ策戦計画ニ怠リナク重要政策ニ対スル態 コトトナリタルモ妻子ノ入国数意外ニ多ク昨年ノ統計

府ヨリ何分ノ回答ヲ得ンコトヲ希望ス 日本政府ニ伝達サレンコトヲ請フ尚成ル可ク早目ニ日本政 来間敷キャ予備的交渉ノ第一段トシテ差当リ以上ノ次第ヲ 子ノ新入国出願ニ対シ旅券ノ発給ヲ見合ハセラルルコト出 展ヲ防止スル為メ此際日本政府ニ於テ二ケ月許労働者及妻 商議ヲ進行スルコトトシ差当リ議会ニ於ケル急転直下的発 阻止センコトヲ切望スルヲ以テ茲ニ日本政府ニ対シ真 !ヲ提議セント欲ス尤問題タルヘキ移民制限ニ付テハ追テ ノの商

止ノ如キ ナカリキ依テ本官ハ首相申出ノ次第ハ一応日本政府ニ取次 然ラハ如何ナル程度ニ制限セントスル考ナリヤト尋ネタル 限ニ付テハ妻子ノ制限ヲ考慮シ居ラルル次第ナリヤ果シテ 以テ日本側ヲ責ムルハ不当ナルコトヲ指摘シ又旅券発給停 ラサリシモ妻子ノ入国ニ関シテハ協約上何等ノ制限ナキコ 多忙ノ為時間ナカリシ故本官ニ於テ詳細意見ヲ述フルニ至 ニ首相ハ右ハ商議ノ際ニ譲リタシトテ具体案ヲ開示スル処 ト述ヘタリ本件提議ハ極メテ重大ナルコトニモアリ且首相 ハ首相モ充分承知シ居ラルル筈ナレハ妻子入国ノ多数ヲ ル処ナル可シト思考スト述へ更ニ此ノ上ノ移民制 ハ仮令一時的ノ処置トシテモ日本政府ノ到底同意 カナダニ於ケル日本人移民制限問題

> 種御考慮相成ル儀ト存スル処御詮議ノ結果本件ニ関シ首相 ク可キ旨ヲ答へ引取リタリ本件ニ付テハ帝国政府ニ於テ種 スル所見ハ御参考迄追而申進ス可キモ不取敢右迄 ニ対スル回答方ニ付何分ノ御電訓ヲ仰ク尚本官ノ本件ニ関

晩香坡ニ暗送セリ

五 四月九日~十日(着) 幣原外務大臣宛(電報)在オタワ松永総領事ヨコ

# キング首相提議ノ日本人移民制限商議ニ関ス

ル所見申進ノ件

第一○号

略上ノ必要ニ強要セラレタル結果ナリト認メラル モ首相カ今回ノ提議ヲナスニ至リタルハ排日派ノ圧迫ト政 面ヨリ其ノ提議ヲ拒絶スルコト当然ノ措置ナリト思考スル 合スコトハ日本ニ於テ輿論激昂ノ虞アリ等ノ理由ヲ具シ正 之ニ制限ヲ加フルコトハ人道ニ反ス三一時旅券ノ発給ヲ見 年ナラサルニ又変更スルコトハ国家ノ体面上同意シ難ク口 妻子ノ入国ニ付テハ協約ノ当初ヨリ制限ナカリシモノニテ 往電第九号ニ関シ御参考迄本官ノ所見ヲ左ニ申進 「キング」首相今回ノ提議ニ対シテハ∏協約改訂後末タニ ルヲ以テ

Ó

現協約ヲ維持スル決心ナル旨ヲ声明シテ排日議員ニ応酬シ グ」首相ハ其ノ機会ヲ利用シ日加親善貿易増進ノ為政府ハ リ一般ノ輿論ハ日本ニ同情シタル際ナリ シ ヲ 以 テ「キン 国ヲ批難シタリ而モ当時米国ニテハ排日条項通過ノコトア 移民ニ付テモ絶対排斥ノ必要ヲ高唱シ殊ニ婦人及子供ノ入 議員ハ之ヲ以テ前年決議ノ趣旨ニ副ハサルモノトナシ日本 ルニ止メタリ右改訂ハ昨年ノ議会ニ発表セラレタルカ排日 ニ付テハ協約改訂ニ依リ労働者ノ入国数ヲ百五十ト制限ス 対シテハ絶対排斥法及登録制度ヲ制定実施シタルカ日本人 対シ有効制限ノ処置ヲ取ルコトヲ決議シ其ノ結果支那人ニ 戦後急速ニ気勢ヲ高メ一九二二年ノ議会ニ於テ東洋移民 御承知ノ通リ当国ニ於ケル排東洋人運動ハ米国ト同シク大 理由トシ其ノ主張ヲ撤回スルコトナカルヘシト懸念セラ タルカ婦人入国問題ニ付テハ妻ノ名義ニテ不正入国者アリ ヘキコト及現協約ニテ有効制限ノ実ヲ挙ケサルトキハ レハ正々堂々タル議論ヲ以テ攻ムルモ彼ハ実際ノ必要ヲ ノ風説モアリ厳重ニ其ノ入国ヲ取締ルト共ニ調査考量ス スヘシト答へ議会閉会トナレ ij 更  $\subseteq$ =

協約改訂ノ際ハ「キング」政府ハ妻子入国ニ付テハ特ニ注

事ヲ議会ニ約言セリ

朝者入国数ノ数倍ニ上ルヲ指摘攻撃スルニ及ヒ初メテ不安働者入国数ノ数倍ニ上ルヲ指摘攻撃スルニ及ヒ初メテ不安

日ヲ高唱セントスル形勢ナリ エリ政府ノ態度緩慢ナルニ於テハB・C州議員ハ挙ツテ排 其処決ヲ迫リ既ニ「ニール」「マクブライド」ノ排日 演 説 東項ヲ包含スル決議ヲ全会一致ニテ可決スルト共ニ其ノ実事項ヲ包含スル決議ヲ全会一致ニテ可決スルト共ニ其ノ実

害スル事ヲ欲セサル事情ニ照シ当然ノ成行ナリ ルニ決シタル由ナルカ右ハ各党共政略上B・C州ノ感情ヲ 近ク総選挙ヲ控へ政府党モ反対党モ最近排日政策ヲ支持ス ルニ決シタル由ナルカ右ハ各党共政略上B・C州ノ感情ヲ 進展シ殊ニ本年ハ米国ノ排日法成立ニ影響セラレー層猛烈 要スルニ両議会ニ於ケル排日運動ハ一九二二年以来急激ニ

ラル元来「キング」首相ハ自由主義ノ人ニシテ日本ニ対シ実排日派ノ圧迫ト党略上ノ要求ニ基キタルモノナリト認メ上記排日ノ経過及現状等ニ照シテ考フレハ今回ノ提議ハ事

リ絶対排斥ヲ実行スルロ実ヲ与フル虞アリク従テ今回ノ提議ハ我ニ於テ之ヲ拒絶スルモ彼ヲシテ提議ヲ以テ党内ノ大勢ニ反シテ所信ヲ断行スル如キ事ハ望ミ難好感ヲ有スルモ政治家トシテハ未タ独裁的威望ヲ有セサル好感ヲ有スル

実際上ノ制限ヲ加フルコト真ニ已ムヲ得サルカ如シま際上ノ制限ヲ加フルコト真ニ已ムヲ得サルカ如シーのシタルハー見大制限ヲ加ヘタルヲ以テ実際上ハ何等制限アリタルハー見大制限ヲ加ヘタルカリテ実際上ハ何等制限リカルハー見大制限ヲ加ヘタルカリテ実際上ハ何等制限のシタルハー見大制限ヲ加ヘタルカ如クナルモ近年実際ノー昨年ノ協約改訂ニテ労働者入国数ヲ四百ヨリ百五十ニ減ー昨年ノ協約改訂ニテ労働者入国数ヲ四百ヨリ百五十ニ減ー

一〇 カナダニ於ケル日本人移民制限問題 二五一明会ノ見込ミ)ハ成ルヘク商議ヲ進行セサル方我ニ有利ナ財会ノ見込ミ)ハ成ルヘク商議ヲ進行セサル方我ニ有利ナ財会ノ見込ミ)ハ成ルヘク商議ヲ進行セサル方我ニ有利ナ新協約ニ応スル場合ニ付考フレハ議会開会中(六月中ニハ新協約ニ応スル場合ニ付考フレハ議会開会中(六月中ニハ新協約ニ応スル場合ニ付考フレハ議会開会中(六月中ニハ新協約ニ応スル場合ニ付考フレハ議会開会中(六月中ニハ

ニ応スル 行ヲ遷延セシメ得ル場合ニハ考量ノ余地無キニ非 券発給ヲ一時停止スルコトニテ先方ヲ満足セシメ商議ノ進 停止例へハ新渡航者ノー、二割若ハ十五歳以上ノ子供ノ旅 府カ之ニテ議会ノ急進ヲ防止シ得サル場合ニ一部分ノ発給 府カ議会ノ急進ヲ阻止センコトヲ力説スヘキナリ去レ 度ニ於テナラハ新協定ノ商議ニ応スル旨ヲ回答シ之ニテ政 モヒムヲ得サル場合ハ妻子入国ノ制限ヲ緩和スル 応推測セラルルモ絶対排斥ヲ阻止スル為今後ノ形勢如何 シタルモノナレハ此上制限ヲ提案スルコト無カル ス ス 上ヨリ見レハ労働者入国数ノ大部分ヲ犠牲ト ヲ提案スルナラント想像ス妻子入国ハ在留民ノ幸福ト人道 商議事項ノ範囲ハ未タ首相ニ於テ示ササルモ妻子入国問題 ハ先方ノ甚タ重視スル処ナレハ恐ラク妻子入国ノ絶対禁止 ハルコトハ コトハ体面上到底忍ヒ難キヲ述ヘ拒絶スル ハ現協定数ノ僅少ナルコト及制限ニ継クニ制限 リテハ此際更ニ制限ヲ要求シ来ラサランヲ保シ難シ此 ルコト望マシキモ最近非難ノ焦点ナレハ妻子ヲ無制限 ノ外無カルヘキ乎労働者ノ入国数ハ二年前ニ協定 到底先方ニテ承諾セサルヘシ結局一定数ノ制限 コト シテ之ヲ維持 カサル ・必要ナ ヘシト ヲ以テス ヘシ 1

相当ノ制限ニ応シ得ヘシト思考ス

協定スルコトヲ要ス 伴スへキ看護人等ノ入国ニ付テハ寛大ナル取扱ヲ受クル様 場合ハ少クトモ商業使用人相当身分アル人ノ婢僕病人ニ同 サレト極端ノ場合ヲ想像シ絶対禁止ニ応セサルヘカラサル 如何ナル場合ニモ絶対ノ入国禁止トナササルコト必要ナリ

者ノ入国ヲ全然禁止スル絶対排斥ヲ主張シ頑トシテ動カサ 若シ夫レ最悪ノ場合ヲ想像シ先方カ協約ニ依リ妻子及労働 ヲ待チ其ノ不当ナルコトヲ世界ノ輿論ニ訴へ責任ヲ彼ニ帰 ル場合ハ我レハ之レニ屈従センヨリハ寧ロ先方ノ排斥実行

等待遇ヲ確保スルヲ得ハ一大利益ナルモ此事タル領権州権 陀人ハ参政権ヲ初トシテ漁業権特殊ノ営業権等ニ関シ法律 ラサレハ決定セサルモ若シ一大制限ノ巳ムヲ得サル場合ニ 斯ノ如ク新協定ニ依ル制限ノ程度ハ今次ノ商議ヲ待ツニア 上又ハ実際上種々ノ制限ヲ受ケ居レリ故ニ若シ交換的ニ同 ヲ要求スルコト一案ナラン現ニB・C州ニ於テハ日系加奈 陀人ノ公権私権ノ享有ニ関シ他ノ外国人ト同等待遇ノ実行 ハ我ハ譲歩ノ代償トシテ加奈陀ニ於ケル本邦人及日系加奈

スルコトヲ可ナリト思考ス

国政府ノ諒トスル所ナルノミナラス「キング」首相従来ノ 貴電第一○号ニ関シ

ル等種々ノ問題ヲ惹起スル虞アリ セサリシ者カ前途ヲ懸念シテ一時ニ殺到シテ渡航セントス ニ出発セハ有効ノ規定ナルカ故ニ既ニ旅券ヲ受ケ未タ出発 且旅券発給ヲ停止スルトキハ旅券ハ元来発給後六ケ月間内 ルモノニシテ政府トシテハ突然之ヲ実行スルコト至難ナリ ス既ニ出発ノ準備ヲ整ヘタル移民ニ対シ不当ノ苦痛ヲ与フ 本邦人心ニ衝動ヲ与ヘ輿論ニ及ホス反響重大ナルノミナラ 好意ハ多トスル所ナルヲ以テ出来得ル限リ好意的考量ヲ加 タキ所存ナルモ此際一定期間旅券発給ヲ停止スルコトハ

問題(英文幣原モリス協議録第二十二、二十三、三十九頁 供殊ニ幼年ノ子供ノ渡航ヲ阻止スルカ如キハ人道ニ関スル 闫元来現行協約ニ対シ不満ヲ唱フル加奈陀側ノ議論ハ常 尤モ所謂写真結婚婦人ノ渡航ニ対シテハ考量ノ余地アリ 参照)ニシテ之カ処理ニ付テハ最深ノ注意ヲ払フノ要アリ 者ノ妻子ノ渡航ヲ制限スルノ外ナキ次第ナルモ妻若クハ子 ナキモ協約ノ実質ヲ改訂セントスルモノナラハ此上ハ在留 ナラハ出来得ル限リ其ノ希望ニ副フ様考量ヲ加フルニ異存 リヤ若シ現行協約ノ実施方法ニ付加奈陀側ニ不満アル次第 口同首相カ現行協約ヲ以テ不満足ト認ムル カナダニ於ケル日本人移民制限問題 ハの何 レノ点 … 在 =

> ノ確保ヲ約シ難ク実現甚タ困難ナラン 協調ヲ前提トスルカ故中央政府トシテハ容易ニ同等待遇

義人道ニ立脚シ世界平和ノ必要ヲ基礎トシ広ク世界ノ輿論 ラレタル消極策ニシテ本官ノ甚タ不満トスル処ナリ此 要スルニ以上新協定ニ関スル対策ハ当国現下ノ大勢ニ圧 根本的ニ排日ノ原因ヲ除去シ徐ニ形勢ノ変化ト時機ノ到来 犠牲ヲ最小限度ニ止ムルニ努メ他方両国民ノ了解ニ依リテ ヲ喚起スルモ一案ナレト到底大勢ヲ防止スルノ効果ナカル ヘキヲ恐ルサレト此際ハ難ヲ忍ンテ協定ニ応スルコトトシ ヲ待ツ外ナカルヘシ 際正

英米大使及晩香坡へ暗送セリ

五三 四月十六日 在オタワ松永総領事宛(電報)幣原外務大臣ヨリ

本邦移民制限商議開始ニ際シカナダ側 入レ事項訓令ノ件 ペノ申

第四号

□本問題ニ付加奈陀政府ノ議会ニ対スル困難ナル立場ハ帝

セラル 渡航者ノ数ノミヲ見テ帰国者ノ数ヲ度外視セルノ感アリー 九二四年ノ統計ニ依ルモ同年ノ渡航者一、 三〇四 帰 国 者 セ見ル時ハ現状ニ対シ特ニ不安ヲ懐クノ理由ナキヤニ思考 一、五八〇差引二七六名丈ケ帰国者ノ方多ク出入ノ数ヲ合

ラレ応答振回電アリタシ 非サレ共本件考量ニ当リ先以テ現行協約ニ対スル加奈陀側 四帝国政府トシテハ協約改訂ノ商議開始ニ対シ異存アル ノ不満ノ要点ヲ承知致度ニ付貴官ハ右ノ旨ヲ首相ニ申入

五五三 五月九日(着) 幣原外務大臣宛(電報)在オタワ松永総領事ヨリ

カナダ行本邦人移民問題ニ関シキング首相

会談ノ件

第一六号

日ニ至リ面(会)セリ本官ハ御訓令ノ趣旨ニ依リ帝国政府 首相ト秘書官トノ間ニ錯誤アリ首相ニ通セス遅延シ五月五 貴電第四号接到後首相ニ面会方秘書官迄申込ミ置キタル処 ノ回答並申入ヲ首相ニ伝ヘタル処

──首相ハ旅券発給停止ニ付テハ前回同様右ハ目下開会中ナ

0

入国数ヲ百五十ト制限シタルハ労働者ノミナラス其家族ヲ 行ハレサルハ遺憾トス実ハ一昨年ノ協約改訂ヨリ労働者ノ 働者ノ入国数ニ関スル協定カ実際上自分ノ予期シタル 成ルヘク協約ヲ維持セント欲スル処現協約ノ最要点タル労 権ヲ制限セラレ甚タ不合理ナリト思考スルモ両国親善ノ為 国ヲ管理シ得ルニ独リ日本ニ対シテハ協約ニ依リ移民管理 |1現協約ニ対シ加奈陀側ニ於テ不満トスル点ニ付テハ モ含メ労働階級ニ属スルモノ全員ヲ百五十ニ止ムル趣意ナ (首相)ハ元来加奈陀ハ他ノ総テノ国ニ対シ自由ニ移民入 カ協定数ニ数倍シタルハ自分ノ意外トスル シニ昨年ノ統計ニ依レハ多数妻子入国ノ為実際ノ総入国 ルミュウ」協約締結当時妻子入国ノ例外ヲ認メタル 処 ナ ,リ 元来 自分 如ク ハ当

者ニ限リ実行セラレタリト思考スト述へタリリ)尚米国トノ紳士協約ニテハ妻子ノ入国ハ協約前ノ在留リ)尚米国トノ紳士協約ニテハ妻子例外ニ関スル部分ヲ読メノナリ(トテ地方官宛訓令中妻子例外ニ関スル部分ヲ読メ限リ之ヲ許容スル趣意ニテ其後協約ニ依リ新ニ入加スルモノニ時既ニ入国在留シタルモノカ帰国ノ上同伴入加スルモノニ時既ニ入国在留シタルモノカ帰国ノ上同伴入加スルモノニ

百ハ **稍当惑ノ色ヲ浮ヘナカラ「ルミュウ」協約ニ依ル制限数四** 釈ヲ聞クハ余カ不審ニ感スル処ナリト述ヘタルニ首相 数ヲ貴政府ニ通告シタリ若シ協約ノ趣意ニ反スル次第ナラ 考ニ依リ妻子入国ヲ許可シ現ニ過去十七年間毎月家族入国 国政府ハ全然首相ト見解ヲ異ニス元来妻子入国ノ例外 大目ニ看過シタル故ナリト逃ケタリ ハ何故従来貴政府ヨリ異議ヲ挾マサリシニ今日貴総理ノ解 ナルコトハ明文上モ疑問ノ余地ナシ帝国政府ハ当初ヨリ其 シ同一ノ理由ヲ認メタル上両者ニ対シ是レヲ認ムルノ趣意 モノニ対シ其理由ヲ認ムル以上其後入国在留スルモ メタルハ全ク人道上ノ理由ニ依ルモノニシテ既ニ在留セル 本官ハ「ルミュウ」協定ニ依ル妻子入国ノ規定ニ就テ 秘密トナリ居リタル関係上加奈陀政府ニテ妻子入国ヲ ノニ対 プラ認

本官ハ米国トノ紳士協約ニテモ昨年七月排日条項実施ニ至ル迄協約成立後ノ入国在留者ニ対シテモ妻子呼寄ヲ認メ居 リタルコトヲ付言シ前述ノ通リ我方ニテハ協約ノ当初ヨリ 妻子入国数ハ労働者制限数トハ何等関係ナキモノトシテ取 技に来リ一昨年ノ協約改訂ノ際モ妻子ノ問題ハ全然除外セ フレ従テ労働者制限数ノ内ニ妻子ヲ加フルコトハ帝国政府 ノ全然関知シタルモノニアラス首相ニ於テ百五十ノ内ニ妻 ノ全然関知シタルモノニアラス首相ニ於テ百五十ノ内ニ妻 ナヲ包含セシムル意味ニテ協定シタリト思考シ居ラレタリ トスレハ全然首相ノ誤解ナリ帝国政府トシテハ迷惑ノ至リ トスレハ全然首相ノ誤解ナリ帝国政府トシテハ迷惑ノ至リ トスレハ全然首相ノ誤解ナリ帝国政府トシテハ迷惑ノ至リ トスレハ全然首相ノ誤解ナリ帝国政府トシテハ迷惑ノ至リ トスレハ全然首相ノ誤解ナリ帝国政府トシテハ迷惑ノ至リ トスレハ全然首相ノ誤解ナリ帝国政府トシテハ迷惑ノ至リ

故其入国数ハ少数ナラムト ラス現状ノ儘ニテ総選挙ニ臨ムコト ニ依リ事態ハ最早黙認スルコトヲ得ス協約解釈ノ当否 特ニ問題トスルコトナカリシモ広義ノ解釈ノ下ニ続 闫首相ハ妻子入国ニ就テハ前述ノ如ク狭義ニ解シ居リ 本政府ニテ注意セラレムコトヲ望ム自分ノ考ニテハ百五十 シ本議会ノ閉会迄ニハ実際問題ヲ何トカ解決セサル 通リ差当リ入国者ノ総数ヲ百五十ニ限定スルコ ハ改訂ノ際自分カ諒解シ議会ニ言明シ議会モ諒解シ 推量シ一昨年ノ協約改訂 ハ到底不可能ナリ有体 トニ日 人人国 7ノ際モ ģ ヘカ ここ 別 iv

切抜ケ得ル見込ナリニテハ満足スマシト思ヘト総数百五十ノ制限ナラハ議会ヲコトニ異存ナシB・C州議員ハ絶対禁止ヲ主張シ居ル故之ノ内ナラハ労働者本人ト妻子ノ割合ハ日本側ノ自由ニ委ス

述へス退出シタリ次第回答スへキ旨ヲ述へ猶申出ノ内容ニ就テハ何等意見ヲ四本官ハ首相申出ノ次第ハ帝国政府ニ報告ノ上回訓ニ接シ

みぎに 出ノ如キモ懸引ナキ処ヲ開示シタルモノノ如ク見ヘタリ御出ノ如キモ懸引ナキ処ヲ開示シタルモノノ如ク見ヘタリ御田終ニ当日首相ノ本官ニ対スル態度ハ始終懇篤ニシテ闫申

五五三

0

カナダニ於ケル日本人移民制限問題

晩香坡へ暗送セリ何レ先方ヨリ覚書送付ノ上ハ電報スヘキモ不取敢右申進ス

二五四 五月二十三日 幣原外務大臣宛 在オタワ松永総領事ョ:

# ルミュー協約改定ニ関スル覚書写送付ノ件

商議開始ニ際シテノ申入レ事項ニ関スル件付属書一 五月五日付カナダ首相宛日本政府覚書

一五月二十二日付松永総領事へ手交ノカナダ政

ルミュー協約改定ニ関スル件

機密公第三号

(六月十日接受)

大正十四年五月二十三日

在オタワ

心領事 松永 直吉 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

「ルミュー」協約改定ニ関スル件

リ五月二十二日「キング」首相ヨリ本官ニ手交致候ニ付往処加奈陀政府ハ今回右申出ニ関スル「メモランダム」ヲ作首相申出ノ次第ハ往電第一六号ヲ以テ報告ノ通リニ有之候現行「ルミュー」協約改定ニ関シ本年五月五日「キング」

電第一八号ヲ以テ電報致候得共確認ノ為別紙「メモランダム」写(甲)茲ニ及御送付候間可然御取計相成度候尚同日ム」写(甲)茲ニ及御送付候間可然御取計相成度候尚同日ム」写(甲)茲ニ及御送付候間可然御取計相成度候尚同日本官ニ於テモ先方ノ希望ニ依リ用意シ置キタル五月五日我市日之ヲ草案トシテ提出シ置キ度追テ我政府ノ承認フハ修正に依リ決定ノ上確定的ニ「メモランダム」トシテ帝国政府ノ承認ヲ経タルモノニ非ルカ故ニンダム」トシテ帝国政府ノ承認ヲ経タルモノニ非ルカ故ニではリ決定ノ上確定的ニ「メモランダム」トシテ法は一次ので編書!)相成度別紙批案写(乙)相添へ此段及稟申候 敬具相成度別紙批案写(乙)相添へ此段及稟申候 敬具相成度別紙批案写(乙)相添へ此段及稟申候 敬具相成度別紙批案写(乙)相添へ此段及稟申候 敬具相成度別紙批案写(乙)相添へ此段及稟申候 敬具

本信写送付先 在晚領事

2 付属書一参照編註1 付属書二参照

### (付属書一)

商議開始ニ際シテノ申入レ事項ニ関スル件五月五日付キング首相宛日本政府覚書

Confidential.

### MEMORANDUM.

Under the instructions of his Government, the

Consul-General of Japan at Ottawa, Canada has the honour to convey to the Prime Minister of Canada, the following statement regarding the Japanese immigration into Canada in reply to the latter's verbal proposition made recently:

The Japanese Government has noted the position of the Canadian Government in Parliament regarding the Japanese immigration as it was stated, and appreciates the friendly manner which the Prime Minister of Canada has always shown toward Japan, and will not object to exchanging views on the existing Agreements with a view to arriving at a settlement satisfactory to both countries. The Japanese Government, therefore, desires first to be fully informed of all the issues considered by the Canadian Government as unsatisfactory in regard to the present Agreement.

The Japanese Government regrets that it cannot acquiesce in the suggestion to temporarily suspend

issuing passports for Japanese emigrants for several reasons, but particularly because of the great shock that is most likely to be felt among the people in Japan and of the unfairness to those who already prepared to come across to this country, and also because of the undesirable effect that would accompany a suddenly increased number of immigrants landing in Canada, as those who have already been granted passports would seek a hurried passage to this country, the passports being valid for six months after issuance.

The Japanese Government would add hereto an observation that the number of Japanese passengers who returned to Japan from Canada has exceeded that of Japanese passengers sailing from Japan to Canada during the last few years, for instance, in 1924 the number of those returned to Japan was 1580 while that of those sailed to Canada was 1304, as it appears that an erroneous impression is being formed

三六九

<u></u>

in Canada as to the increase of Japanese immigrants.

May 5th, 1925.

### (付属書二)

ルミュー協約改定ニ関スル件五月二十二日付松永総領事へ手交ノカナダ政府覚書

### Confidential.

satisfactory to both countries, the agreement in the hope of arriving at a settlement meet the end in view. tinue the issue of passports for some months would Japan did not consider that the proposal to discon-Canadian Government as to Japanese immigration while realizing the situation which confronts the the Prime Minister on May 5, 1925, to the effect that through the Consul-General in his interview with ment of the The Government of Canada has noted the stateprepared to exchange views on the existing Government of Japan, communicated This is regretted, as it is Government  $^{\text{of}}$ 

believed that such a discontinuance would have created a favorable atmosphere for further negotiations and might have averted legislative action and possibly discussion during the present session of the Canadian Parliament.

The Government of Canada has noted further the observations of the Consul-General upon the numbers of outgoing as compared with incoming Japanese, and the request for a statement of the changes which are contemplated. It has therefore pleasure in indicating in outline, in the present memorandum, its views as to the changes which are required to bring the situation into conformity with changed conditions and to avoid popular agitation in Canada and friction with a great nation with whom the people of Canada are desirous of remaining in the closest friendship.

In view of the strong feeling, irrespective of party, which exists in Western Canada upon the subject

by Canada. obviate the necessity ment of the situation by mutual agreement and thus which the Government of Canada has approached summary of his views on Oriental immigration and attention of the Japanese Government to a recent grounds. migrants, is based upon economic and not upon racial whether in the case of European or of Japanese imclear that ing which will result in a substantial reduction of feels that it is essential to come to an understandof Japanese immigration, the Government of Canada Pacific problems contained in a pamphlet by E. question. Bell, which illustrates the point of view from The Prime Minister begs to direct the It desires at the same time to make its policy of restricting immigration, desires further to effect a settleof special legislative activity it

The agreement of 1907 was substantially a measure whereby Japan undertook to restrict within certain

immigrants, contemplated that Japanese immigrants would specially against Japanese immigrants. It was not undertook not to pass any legislation discriminating limits the departure to Canada of emigrants should be regarded as a minimum entitled to ademigrants to whom the Japanese Government proexempt from the general regulations applying to might compete with Canadian workers, while Canada mission in any case. posed to grant permission to leave Japan for Canada or that the number  $_{
m of}$ Japanese

Since 1907 the situation had changed in several important respects:

- The adoption by Canada, as by other countries, of stricter regulations as regards immigration generally,
- (2) The passing of the United States exclusion law, which had aroused fears of concentration of immigration upon British Columbia, and demands from

# 一〇 カナダニ於ケル日本人移民制限問題 二五四

British Columbia, including an unanimous resolution of the legislature of the province, for similar action, and

(3) The rapid growth of the Japanese population of Canada (1911, 9,021; 1921, 15,868), and particularly in British Columbia, and the control of important industries, particularly fruit and vegetable growing, fishing, and retail business in many districts, by these groups. These factors made it necessary to reconsider the situation.

In the agreement of 1907 the Japanese Government declared that the following classes of emigrants only were those to whom it would grant permission to emigrate to Canada:

1. Emigrants having previously resided in Canada and holding certificates of such residence issued by the Japanese consular authorities in the Dominion, and the wives and children of such emigrants.

tive of the date of such legal entry. are in possession of Canadian domicile irrespechave been legally admitted to Canada and who this clause which would include Japanese who pared, however, to accept an interpretation of Canada, although this has been the interpretaand who return to Japan to proceed again to entitle emigrants who came to Canada after 1907 there for a protracted period; neither would it to Japan and taken up their permanent residence emigrate again to Canada after having returned Japanese who came to Canada prior to 1907 resided in Canada before 1907 and who desired Government, applies only to emigrants who had This provision, in the belief of the Canadian placed upon the clause in practice hereto-The Canadian Government would be pre-Ιt is not considered that it

In order to establish their right to be included

in this class and to avoid hardship, Japanese leaving Canada with the intention of returning thereto should procure from the Canadian Immigration Officer at the port of embarkation a certificate which would facilitate their readmission within a specified period which would be extensible in accordance with the general provisions of the Immigration Act as to retention of domicile.

It follows that only emigrants who had resided in Canada before 1907 would be entitled to permission to take their wives and children back with them from Japan to Canada. In this connection, the Canadian Government would, however, be prepared to accept an interpretation of the agreement entitling all Japanese legally admitted to Canada prior to July 1, 1925, to bring in their wives and children.

「It is desired, as was intimated last year that カナダニ於ケル日本人移民制限問題 二五四

the term "wives" should not apply to what are known as "picture brides". It is further desired that it should be understood that "children" should be defined, as under Section 2(h) of the Immigration Act, as being under eighteen years of age.

- 2. Emigrants specially engaged by Japanese residents in Canada for *bona fide* personal or domestic service, upon production of written evidence of such engagement, attested by the competent Japanese consular authorities.
- 3. Agricultural labourers under contract with Japanese resident agricultural holders in Canada and specially required for the working of these lands, at the rate of from five to ten labourers per hundred acres held by the applicant, upon certificate by Japanese resident consuls, following inquiry into the bona fides of the applicant and into the existing state of the labour market

三七

and of public feeling.

As to domestic and agricultural labourers, it was understood that the Japanese Government did not contemplate that under the circumstances of that time these two classes would exceed four hundred annually. This figure has since been set at one hundred and fifty.

.. Contract emigrants, for definite works in Canada, with certificate from the resident Japanese Consul and the approval of the Canadian Government.

Bearing in mind the conditions which have necessitated this discussion, the Government of Canada is under the necessity of suggesting that this number, one hundred and fifty, should include all persons belonging to the classes of emigrants described below:

(a) Wives and children under eighteen years of age of husbands legally admitted to Canada

prior to July 1, 1925, and who are in possession of Canadian domicile or are legally in Canada within the meaning of the Immigration Act:

- (b) Bona fide domestic servants;
- (c) Bona fide agricultural labourers

It is understood, of course, that previous residents of Canada, as described in the first part of clause 1 above, would not be classified as immigrants by the Government of Canada and therefore would not be included in the one hundred and fifty persons referred to.

The above regulations summarize the course of action by which the Government of Japan has undertaken, on its part, to restrict the sailing of emigrants, and also indicate in part the wishes of the Government of Canada in its desire to continue to carry out the principle of the agreement of 1907.

The Government of Canada desires further to em-

phasize the fact that all immigrants are required to comply with the provisions of the Immigration Act and the administrative procedure adopted therein, and, therefore, considers that it is free to apply such regulations to Japanese immigrants. Obviously this does not constitute any discrimination against Japanese; on the contrary, exemption from these general provisions would constitute discrimination in favour of Japanese against European immigrants.

In the application of the passport regulation, Order-in-Council No. 185, dated January 31, 1923, it is the practice of the Canadian Immigration authorities to pre-investigate applications for the admission to Canada of domestic servants and agricultural workers before the issuance of a document authoring the granting of the visa by the competent authority, as provided therein. It is evident that the same procedure would be applicable in case of Japanese immigrants of these classes.

(付

スル先方ノ回答右カナダ政府覚書ニツキ口頭ヲ以テ為シタル我ガ方ノ質疑ニ対

- eligibility entitling husbands to bring wives even if it is less than five years. Immigration Act. five years required to establish domicile under the essential that he should have lived here for the meaning of the Immigration Act. It is not Canadian domicile, or be legally in Canada within condition, that he shall either be in possession of Canada prior to July 1, 1925; and as the second husband shall have been legally admitted to residence for the period since coming to Clause (a) proposes, as the first condition of under eighteen years It will suffice if he has retained of age,
- 2. To acquire domicile under the Canadian Immigration Act it is not necessary to live continuously in the country within that period may be included if the intention to remain in Canada

s established.

by the gration inquire into the validity of the applicais issued by the Department to the applicant, tion, and if it is found to be bona fide, a letter servants; officials of the Department of Immithe services of agricultural laborers or domestic who afterwards send it to the intending emimade by persons in Canada who desire to secure the Department is grants under P.C.185. This letter is made the basis for the visé Canadian immigration officer or British bearing are no further Order-in-Council or regunpon as follows: applications the The practice in force in admission of, immiare

# 二五五 五月二十六日(着) 幣原外務大臣宛(電報) 在オタワ松永総領事ヨリ

# タル覚書ヲ手交サレタル件本邦人渡航制限ニ関スルカナダ側提案ヲ認メ

ルコトハサシテ手間取ル間敷ト思考スト云へリ 本官ハ曩キニ先方ノ錯誤ニテ最初ノ提議ニ対スル我政府ノ 本官ハ曩キニ先方ノ錯誤ニテ最初ノ提議ニ対スル我政府ノ 本官ハ鬼ニ角首相ノ申出ノ旨ハ我政府ニ伝達スへキ旨ヲ答 本官ハ鬼ニ角首相ノ申出ノ旨ハ我政府ニ伝達スへキ旨ヲ経テ ない現ニ交渉中ナル故之レニテ議会ヲ切抜ケ得ラルへ カージャ説キタルニ首相ハ其ノ不可能ナルコトヲ固執セリ依テ ないのテ退出セリ

リハ多少長引ク模様モアリタルモ目下重要法案討議未了ノモノ鮮カラサルニ付予定ヨガーを引きなり、近には、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カ

## 編註 二五四文書付属書二ト同文

ルミュー協約改定ニ関スル五月二十二日付カニ五六 三十一日(着) 幣原外務大臣宛(電報)

第一九号

ナダ政府覚書ニ対シ請訓ノ件

一〇 カナダニ於ケル日本人移民制限問題 二五六往電第一八号加奈陀政府ノ「メモランダム」ハ五月五日首

#### 第一七号

得ス何等具体的ニ政府ノ処置ヲ言明スルニアラサレハ少ク 早交渉中ナル言葉ヲ以テハB・C州議員ヲ満足セシムルヲ シ置キタル通ナレハ此点ニ関シ日本政府ノ意向ヲ決セラル 係上貴方希望ノ通リ速ニ我政府ノ回答ニ接シ得サルヤモ計 レナハ切り抜ケ得ラルルニアラスヤト述ヘタルニ首相ハ最 リ難シ議会ノ方ハ現ニ日本政府ト交渉中ナル旨ヲ言明セラ ナス順序トナルヘク本文ハ相当長文ニシテ郵送ヲ要スル関 電報スヘキモ我政府ハ詳細本文ニ付研究ノ上何分ノ回答ヲ ト述へタリ本官ハ右「メモランダム」ノ要領ハ早速我政府ニ 共本問題ノ処置ニ付言明セサルヘカラサル立場ニ在ル故其 体六月半ヲ以テ閉会ノ見込ナルカ自分ハ今期議会ニハ是非 慮ヲ請ハント欲スル処ナリ然ルニ茲ニ願度キハ領議会ハ大 シタル上之レ加奈陀政府ノ提案ニシテ日本政府ノ好意的考 務次官ト同席ニテ別電第一八号ノ「メモランダム」ヲ朗読(編註) 五月二十二日招キニ依リ「キング」首相ニ面会ス首相ハ外 ノ含ミニテ可然速ニ日本政府 /回答ニ接センコトヲ希望ス 長文ナルモ其実質殊ニ要点ハ極メテ簡単ニシテ先般説述 モ排日法案ノ成立ヲ阻止スル能ハス尚「メモランダム」

▽写●階級ニモ(不明)総入国数ヲ一年百五十人ニ制限ス

提案ノ内容即チ協約改訂ニ関スル事項ヲ概括スレ

ルモ先方ハ飽迄総数ノ制限ヲ固執ス可ク交渉上ノ最大難点限ハ極力正義人道ノ上ヨリ其ノ不当ナルヲ論スヘキモノナ農業及家内労働者ヲモ現在ヨリ制限スル事トナル妻子ノ制農業及家内労働者ヲモ現在ヨリ制限スル事トナル妻子ノ制限カルモ先方ハ飽迄総数ノ制限ヲルヨ改メ農業労働者、家現協約ニテハ妻子入国ハ無制限ナルヲ改メ農業労働者、家

ナラム

入国シタルモノノ妻子ニ限ル事
□前項ニ依リ入国スル妻子ハ本年七月一日以前ニ加奈陀ニ

||前二項ニ依リ入国スル子供ハ十八歳以下ナルコト

得サル可シリタルモ一般移民法ニ十八歳ノ規定アル故此制限ハ已ムヲハ或ハ十八歳トシ或ハ二十歳トシ任意制限ヲ設ケ取扱ヒ来協約ニハ子供ノ年齢ニ付キ規定ナキヲ以テ従来我方ニ於テ

権ヲ有スルモノノ妻子ナルコト 四前三項ニ依リ入国スル妻子ハ正当ニ入国 シ 且 domicile

シテ住所等有スルモノトシ度シ妻子入国ニ及ホス事ハ過酷ナリ他国移民同様正当入国者ニ格ニ関スルモノニシテ五ケ年在留スルコトヲ要ス此条件ヲ格ニ関スルモノニシテ五ケ年在留スルコトヲ要ス此条件ヲ不正入国者ノ妻子入国ヲ認メサル点ハ人ニ依リ気ノ毒ナル不正入国者ノ妻子入国ヲ認メサル点ハ人ニ依リ気ノ毒ナル

| 国写真結婚婦人ノ入国ヲ禁止スルコト

ノ関係ハ大ナラスシ妻ノ入国ニ付仟ノ制限ヲ受クルニ至ラハ本問題ノ実利上が妻ノ入国ニ付仟ノ制限ヲ受クルニ至ラハ本問題ノ実利上解セシメ得ヘキモ一般ノ誤解ヲ除去スルコト困難ナラン若写婚婦人カ我法律上適法ノ妻ナルニ付テハ加奈陀政府ヲ諒

情同一ナラサル点ニ付キ考量ヲ求ムル必要アリ とい在留五年ニ満タサル者ハ新移民トシテ渡来シ得ルニ反 国五年ト規定セル故先方ハ容易ニ同意セサル可キモ他国移 留五年ト規定セル故先方ハ容易ニ同意セサル可キモ他国移 留五年ト規定セル故先方ハ容易ニ同意セサル可キモ他国移 は来我取扱上不正入国者モ特別ノ者ニ再渡航ヲ許シ在留五

**出再渡航者ハ加奈陀出発前乗船ノ移民官ヨリ再渡航ニ関ス** 

スル必要ナカル可シ且現ニ我移民モ任意的ニ実行シ居ルモノアルニ付強ク反対人国者ノ再入国ニ際シテハ簡易ノ取扱ヲ受ケ得ル便益アリ之ハ不正入国者ノ再渡航ヲ防止スル為ノ制限ナル可シ正当

奈陀移民官憲ニ提出シ其ノ調査承認ヲ経ルコト(八農業労働者及家内使用人ノ入国ニ付テハ予メ呼寄願ヲ加

証明ヲ以テ満足セシムルコトト致シタシス国験ニ大制限ヲ受クル場合ハ成ル可ク現在通リ我領事ノス国数ニ大制限ヲ受クル場合ハ成ル可ク現在通リ我領事ノス国数ニ大制限ヲ受クル場合ハ成ル可ク現在通リ和奈陀移民官ノ呼寄者ニ関スル承認書提出ヲ要求スル儀ナリ之ハ呼ス国数ニ大制限ヲ受クル場合ハ成ル可ク現在通リ加奈陀移民・成務氏ノ旅券ハ在外加奈陀移民官又ハ英国領事ノ査証ヲ一般移民ノ旅券ハ在外加奈陀移民官又ハ英国領事ノ査証ヲ

一〇 カナダニ於ケル日本人移民制限問題 二五六ト事実ナリ例へハ我移民ハ前項ノ承認書ヲ要セス又再渡航従来我移民ハ必スシモ一般移民法規ノ制限ヲ受ケサリシコ

得ス入国数ニ一層ノ大制限ヲ加ヘラルル場合ハ尚更ノコト ラス移民法第三十八条等ノ規定モアリ何時過酷ノ制限ヲ加 題トシテハ区別的待遇ヲナサストノ保障ナキ限リ直ニ同 リ協議スル処ヲ以テ先方ノ諒解ヲ得ルコトニ力メ主義ノ問 般法規ト歩調ヲ一ニシ成ル可ク同様ノ取締ニ服セシムル ニ委スル位ノ手心ヲ認メタリトテ過当ノ優遇ナリト云フヲ 元来我移民ハ入国数ニ於テ甚タシク制限セラレ居ル 由ナシトノ批難ニ基クモノニシテ一応尤ノ次第 ナ レ ト モ ヲ申出テ来リタル セサルコト然ル可シ ナリ但シ我移民ニ付テモ各個人ニ対スル取締等ニ付テハ一 ヘラルルヤ計リ難キニ付我移民ニ付テハ実際上大体我取扱 シ今回我移民モー般法規ノ拘束ヲ受ク可シトノ主張ノ確認 ハ在留五年以内ノモノニモ之ヲ許可シ又小供ハ我法律 ト差支ナシト思ハルルニ付之等ニ付テハ随所ニ応シ先方ヨ 青年モ二十歳迄ハ大体差支ナシトシテ取扱ヒ来レル ハ日本移民ハ欧州移民以上ニ優遇スル ノミナ :三依 力 意 コ

総数ニ関スル制限ハ妻子入国ノ制限ニシテ我ノ最モ苦痛ト形式ニ関スルモ多クハ協約ノ実質ニ関ス右ノ内移民ノ入国以上提案ノ諸種新制限ヲ列挙セリ其ノ一部ハ協約実行上ノ

## 0 カナダニ於ケル日本人移民制限問題 二五七

保的考慮ヲ加フル必要アル可シ 原案ヲ主張ス可シト予想セラルルニ付他ノ制限ニ付テモ留 限ニ付テハ部分的ニ考慮シ得可キモ先方ハ飽迄妻子制限ノ スル処ナル可シ入国ヲ相当有利ニ解決シ得ル場合ハ他ノ制

平洋問題ニ関シ市俄古「デーリー・ニュース」記者「プラ 先方ノ「メモランダム」中「キング」首相カ東洋移民及太 省ニテ「メモランダム」ヲ作リ御電報相成ル様致シタシ尚 付スルコト然ル可シト思考セラルルニ付御訓令ト同時ニ本 り遺憾ナカラ相当制限ニ応スルノ已ムヲ得サル可キ処如何 テ大勢ニ押サレタル結果ナレハ何等有力ナル対抗策ナキ限 抑モ今回協約改訂ノ提議ヲ見ルニ至リタルハ既ニ報告ノ通 アリ右会見録ハ既ニ同記者ヨリ本省へ寄贈シタルコトト存 ヘキ処少ク共回答ノ趣旨ハ「メモランダム」ニテ先方ニ交 ナル程度ニ於テ交渉ヲ開始スヘキヤ我政府ノ御裁断ヲ請フ リB・C州ノ排日運動ト党略上ノ必要ニ基キタルモノニシ イス・ベル」ト会見シテ述ヘタル意見閲読ヲ請フ旨ノ一節 (往電第一○号参照)帝国政府ノ回答ハ追テ御訓令ニ接ス ルモ御入手ナケレハ送付スヘシ

> 二五七 六月十六日 幣原外務大臣宛在英国林大使ヨリ

カナダニ於ケル排日移民法制定運動阻止方英 国政府ヨリカナダ政府ニ申入レノ件

機密公第四九号 大正十四年六月十六日 (七月二十一日接受)

特命全権大使男爵

権助

印

外務大臣男爵 加奈陀ニ於ケル排日移民法制定運動ノ件 幣原 喜重郎殿

昨十五日吉田参事官外務省極東部長「ウオターロ 食ノ節同部長ハ左ノ通リ同参事官ニ内話シタル趣ニ有之侯 民ノ要求ヲ無視シ難キ事情モアル趣ナルカ英国政府ハ最 近加奈陀政府ニ対シ此種運動ヲ止メ(ストップ)シムル ンコトヲ加奈陀政庁ニ迫リ居リ同政庁ニ於テハ同地方人 ル法律ニ類似ノ法律ヲ加奈陀ニ於テ日本人ニ対シ制定セ 加奈陀西海岸ニ於テハ日本人ニ対シ米国ノ最近制定シタ ー」ト会

此段報告申進候也

本信写送付先 在オタワ総領事、 在晚香坡総領事

六月二十一日 在オタワ松永総領事宛(電報)幣原外務大臣ヨリ

ツキ疑点問合セノ件 ルミュー協約改定二関スルカナダ政府覚書ニ

第一〇号

貴電第一九号ニ関シ

一、妻子呼寄ノ条件トシテ「ドミシル」権ヲ認ムルコトハ 主張ハ孰レナリヤ 付属ニ依レハ該条件ヲ必要トセサルヤニ解セラル先方ノ 人道上甚タ困難ナル処五月二十三日付機密公第三号貴信

二、加奈陀移民法第二条所定「ドミシル」ヲ獲得スル為ニ 右期間ハ中断セラルルモ差支ナキヤ ハ引続キ五年以上加奈陀ニ居住スルコトヲ必要トスルヤ

三、貴電八農業労働者家内使用人ノ入国許可願ヲ加奈陀移 ナリヤ又審査事項及方法如何 民官ニ於テ予シメ審査スルノ手続ハ一九二三年一月三十 一日閣令中ニ明示ナキ処法規上如何ナル根拠ニ基クモ

> 二五九 六月二十九日(着) 幣原外務大臣宛(電報)在オタワ松永総領事ヨリ

ツキ質疑ニ対スル回答ノ件 ルミュー協約改定ニ関スルカナダ政府覚書ニ

第二三号

貴電第一○号ニ関シ

先方ニ聞合セタル結果左之通

☆妻子呼寄ノ条件ハ「ドミシル」権ヲ有スルカ又ハ移民法 ルモノハ呼寄ノ資格アリ ナキ趣旨ナリ従テ在留五年ニ満タサルモノモ住所ヲ有ス ノ意味ニ於テ正当ニ加奈陀ニ在留スルカ何レニテモ差支

闫加奈陀移民官ニ於テ事前審査ノ方法及手続ニ付テハ何等 □「ドミシル」権獲得ノ為必要ナル五年以上ノ期間ハ必ス 交付ス呼寄者ハ其ノ許可書ヲ被呼寄者ニ送付スルコトト 査シ bona fide ナルコトヲ認ムレハ移民省ヨリ許可書ヲ 之ニ加フルニ一時不在ノ期間モ加算セラルル慣例ナリ スル者ヨリ願書ヲ差出サシメ移民官ニ於テ其ノ報告ヲ調 ヲ証明シ得レハ一時ノ不在ハ右期間ヲ中断スルコトナシ シモ継続シタルコトヲ必要トセス加奈陀ニ定住スル意思 ノ協定ナシ実際ノ慣例ニ依レハ一労働者ヲ呼寄セント欲

0 カナダニ於ケル日本人移民制限問題 三五八 二五九

ナリ居レリ

二六〇 七月二十日(着) 幣原外務大臣宛(電報)

# ルミュー協約改定商議開始方請訓ノ件

#### 第二六号

下中越セリ 大電第二二号後段ニ関シ未タ御訓令ニ接セサル処当国外務 住電第二二号後段ニ関シ未タ御訓令ニ接セサル処当国外務 大電第二二号後段ニ関シ未タ御訓令ニ接セサル処当国外務 大電第二二号後段ニ関シ未タ御訓令ニ接セサル処当国外務 大電第二二号後段ニ関シ未タ御訓令ニ接セサル処当国外務

計リ難ク各党トモ其ノ準備ニ忙ハシキ有様ナリ(新聞紙ニルモノナリ(往電第九号参照)而シテ議会ハ既ニ六月二十と日閉会シタルモ目下何時議会ヲ解散シ総選挙ヲ行フヤモと通過ヲ防止スルニアリタルモ一面次ノ総選挙ノ対策トセ本来加奈陀政府ノ本問題提議ノ動機ハ一ハ今年議会中排日本来加奈陀政府ノ本問題提議ノ動機ハ一ハ今年議会中排日

# 六一 七月二十三日 在オタワ松永総領事宛(電

# ルミュー協約改定商議開始ニ関スル件

1 七月二十三日幣原外務大臣発在オタワ松永総別電ー 七月二十三日幣原外務大臣発在オタワ松永総別 電一 七月二十三日幣原外務大臣発在オタワ松永総別

領事宛電報第一三号

ルミュー協約改定商議ニ関スル日本政府対案

#### 第一一号

### 貴電第二六号ニ関シ

シ置キ度キ希望ナルコトヲ述へ先方ノ同意ヲ得置カレ度シナク又我政府ハ少クトモ商議成立迄ハ本件交渉ヲ極秘トナヲ俟ツテ商議ヲ開始シウヘキ次第ヲ先方ニ内話セラレ差支来ル二十九日閣議ニ付セラルル筈ニテ閣議ノ結果電報スへ来ル二十九日閣議ニ付セラルル筈ニテ閣議ノ結果電報スへ東官ニ対スル訓令案別電第一二号及第一三号ノ通リ作製シ貴官ニ対スル訓令案別電第一二号及第一三号ノ通リ作製シ

### 晩香坡へ暗送アレ

### (別 電一)

二号七月二十三日幣原外務大臣発在オタワ松永総領事宛電報第一七月二十三日幣原外務大臣発在オタワ松永総領事宛電報第一

ルミュー協約改定商議へノ我方対案訓令ノ件

#### 第一二号

### 貴電第一九号ニ関シ

第一三号ノ範囲並程度ニ於テ協商ノ改訂ニ応スルハ已ムヲ局ニ鑑ミ且又加奈陀政府ノ困難ナル立場ヲ顧念シ大体別電般ノ事情ニ顧ミ甚タ困難トスル所ナルモ一方日加親善ノ大般ノ事情ニ解ミ甚タ困難トスル所ナルモ一方日加親善ノ大

スル点アリ覚書ヲ以テ回答スル場合ニハ此等ノ点ニモ言及スル点アリ覚書ヲ以テ回答スル場合ニハ此等ノ点ニモ言及スル必要アルヘク旁々貴官ハ先ツ単ニロ頭ヲ以テ我対案ノカル解決ヲ希望スル情ノ切ナルコトハ既ニ加奈陀議会ノ閉ナル解決ヲ希望スル情ノ切ナルコトハ既ニ加奈陀議会ノ閉ルが解決ヲ希望スル情ノ切ナルコトハ既ニ加奈陀議会ノ閉スル好意的考慮ヲ促サレ度シ

別電ト共ニ晩香坡ニ暗送アレ

#### **(別電二**

三号
七月二十三日幣原外務大臣発在オタワ松永総領事宛電報第一

ルミュー協約改定商議ニ関スル日本政府対案

### 第一三号

### 我方ノ対案左ノ通

加奈陀案ハ余リニ苛酷ナル制限ナリ、我方提案ニ百五十八子女(b)善意ノ家内婢僕(c)善意ノ農業労働者ヲ合セ一年一、移民入国数ノ制限ハ(a)写真結婚以外ノ妻及十八歳未満一、移民入国数ノ制限ハ(a)写真結婚以外ノ妻及十八歳未満

カナダニ於ケル日本人移民制限問題 二六一

0

三八三

数ノ半分以下ナルノミナラス従来無制限ナリシ妻子ヲ之 ナル所以ヲ篤ト説明セラレ度シ ニ加算スルモノナルヲ以テ右二百五十人ノ数ハー大制限 人ハ加奈陀政府統計ニヨル昨年度ノ日本移民加奈陀入国

一、妻子呼寄及同伴資格ヲ一九二五年七月一日以前ノ正当 件トセス単ニ「ドミシル」ヲ有スル者又ハ正当ニ加奈陀 百五十人中ニ加算スルモノナルヲ以テ入国時期ハ之ヲ条 者トシ度シ 内ニ在ル正当入国者ノ何レカ一方ニ属スレハ右資格アル 入国者ニ限ルハ人道上苛酷ナルノミナラス妻子ヲ前記二

三、再渡航ノ資格ニ付テハ入国時期如何ヲ問 陀移民法ニヨリ「ドミシル」ヲ有スル正当入国タルコト 発前乗船地ノ移民官ヨリ再渡航証明ヲ取付ケ置ク事ニ異 ストスル加奈陀案ニ異存ナシ、又右再渡航者ハ加奈陀出 ヲ要シ此資格者ハ移民トセス制限ノ人数中ニ包含セシメ パサルモ. 加奈

欧米人ト差別アル待遇ヲ受ケサル限リ一般的移民法規ヲ 日本移民ニ適用スルコトニ異議ナク又家内婢僕及農業労 移民法ト ノ関係ニ付テハ本協商ニ抵触セス又名実共ニ

> 働者ノ入国ニ付テハ査証ヲ与フル前ニ移民官ニ於テ審査 スル加奈陀ノ慣行ヲ我移民ニ適用スル事差支ナシ

Ŧ, 念次ノ点ヲ明確ニ為シ置キ度シ ヲ受クルカ如キ誤解ヲ生スルコトアルヘキヲ以テ此際為 アラス其場合ニハ商人ノ如キモ移民トシテ本協商ノ制限 法ノ移民ノ定義ヲ本協商ノ実施上適用セラルル虞ナキニ ラント」ト云ヒ其意義明確ナラス後日ニ至リ加奈陀移民 加奈陀政府覚書ニハ移民ノ定義ヲ与ヘス単ニ「エミグ

bc ニ属スル者ヲ除ク外渡航セシメス 本協商ニヨリ入国再入国並妻子ノ呼寄及同伴ニ制限ヲ受 臣宛「ルミュー」ノ書柬列挙ノ者並ニ銀行会 社 及 商 店 リ夫レ以外ノ者例へハー九〇七年十二月二十三日付林大 ノ通リ制限ヲ受ケサルモノトス尤モ労働者ハ前記第一項 クル者ハ家内婢僕又ハ農業労働者トシテ入国スル者ニ限 (commercial firms and houses)ノ店員ニ付テハ従来

六、本協議ニヨリ成立スヘキ制限ハ本協商成立後三ケ月以 後ニ旅券ノ発給ヲ受ケタル者ニ適用ス

二六二 七月二十九日(着) 幣原外務大臣宛(電報)在オタワ松永総領事ヨリ

### 回答及ビ我ガ方対案ニツキ意見具申ノ件 ルミュー協約改定ニ関シ疑点問合セニ対スル

貴電第一四号ニ関シ

ヲ受クルコト自然困難ナラン 航ノ証明ヲ取リ付クルコトトナレハ不正入国者ハ斯 加奈陀案ノ通リ再渡航者ハ出発前乗船地ノ移民官ヨリ再渡 事ノ再渡航証明ヲ得テ帰国シ旅券ヲ受ケ更ニ渡航シタル 取得スルコトヲ得サルヘシサレト従来不正入国者ニシテ領 ─不正入国者ハ移民法ノ明文ニ照シ理論上「ドミシル ハ事実上「ドミシル」ノ利益ヲ受ケタル次第 ナリ iv ニヲ 利益 来 モ

ナル 人余 両者ヲ通シテ三百名トス尚近年妻子入国数ハ一年平均三百 リト思考ス其理ハ労働者ノ入国数ハ二年前ヨリ百五十ニ制 国数ノ半数ヲ根拠トスル次第ナルカ三百名トスルモ一案ナ 口移民入国数ノ制限ニ付テハ本省案二百五十名ハ昨年ノ入 場合ナル故労働者ト同数ノ百五十迄ニ制限スル意味ニテ ニ付半数以下ニ制限スル次第ナリト説明シ得ヘシ (我統計ニ依レハ最近五年ヲ平均シ一年三百十七名) 妻子ノ制限ハ実際ニ同情忍ヒ難キモ止ムヲ得サ

> 六ケ月ノ期間ハ旅券ノ出発ニ於テ有効期間ヲ記入シ協商成 大体ニ付会商成立後六ケ月ヲ経テ実施スル御趣意ナリト察 闫貴電第一三号末段ニ関シ本協議ニ依リ成立スヘキ制限 ニ多数入国ノ便宜ヲ計ラントスル趣意ヲモ含ム次第ナリヤ 立前ノ既得権者ヲ保護セントスル趣意ナリヤ又ハ六ケ月 ヲ受ケタルモノハ本制限ノ適用ヲ受ケスト解釈シ得ル余地 スル処電文ノ通ニテハ会商成立後六ケ月以内ニ旅券ノ発給 アリ是亦御趣意ノ存スル処ナリヤ ハ

### 二六三 七月三十一日 閣議決定

本官心得ノ為御回示ヲ請フ

## ルミュー協約改定ニ関スル件

同伴スル妻子ノ渡航ニハ何等ノ制限ヲ設ケサルコトト 加奈陀へ渡航スル日本移民ヲ家内婢僕、農業労働者ニ限 容レ移民ノ自制手段トシテ所謂「ルミュウ」協商ヲ遂ケ ビア」州ニ於ケル排日ノ形勢ニ鑑ミ加奈陀政府ノ希望ヲ サルコトトシ之ト同時ニ再渡航移民及移民ノ呼寄セ又ハ リ且其ノ渡航数ハ右両者ヲ合セテ一年四百人ヲ超エシメ 帝国政府ハ明治四十年加奈陀「ブリテッシュ・ コロ

カナダニ於ケル日本人移民制限問題 ニ六三

# 一〇 カナダニ於ケル日本人移民制限問題 二六三

大正十二年更ニ之ヲ百五十人ニ制限シタリリ尤モ右一年四百人ノ制限数ハ加奈陀政府ノ希望ニ基キ

防止スルコト絶対ニ必要ナリト認ム仍テ大体左記下段ノ加フルコトハ甚タ困難トスル所ナルモ昨年米国移民法人加フルコトハ甚タ困難トスル所ナルモ昨年米国移民法人加フルコトハ甚タ困難トスル所ナルモ昨年米国移民法ノニ、帝国政府トシテハ此ノ際加奈陀行移民ニー層ノ制限ヲ

加奈陀政府提案 | 帝国政府対案趣旨ヲ以テ加奈陀政府ト交渉スルコトト致度シ

三八六

、移民入国数ノ制限

八川县

制限

(十八歲未齒,

妻及十八歳未満ノ子

(1)

善意ノ家内婢僕

(口)

右三者合計一年百五十人 善意ノ農業労働者

(イ) 一九二五年七月以前二、妻子呼寄及同伴資格

ヲ有スル者 奈陀ニ住所(ドミシル)

ノ如キ制限案ヲ提議シ来レリ

八国者ニシテ正当ニ加 前記時期以前ノ正当

奈陀内ニ在ル者

合計二百五十人トス

(化) 「ドミシル」ヲ有ストナサス

ル者

又ハ

ニ加奈陀内ニ在ル者(ロ) 正当ニ入国シ且正当

右ハ何レモ有資格者トス

三、再渡航ノ資格

大国時期如何ヲ問ハサル 大国時期如何ヲ問ハサル 所(ドミシル)ヲ有スル 所(ドミシル)ヲ有スル 正当入国者タルコトヲ要 正当入国者タルコトヲ要

ハ渡航セシメス 四、所謂写真結婚ニヨル妻

異議ナシ

五、移民法トノ関係

加奈陀ノ慣行ヲ日本移民ニモ適用シ又家内婢僕及ニモ適用シ又家内婢僕及ニ移民官ニ於テ審査スル前の一般移民法規ヲ日本移民

コトトナル)
ハ制限数中ニ加算セラルルル」ヲ有セサル者ノ再渡航

受ケサル限リ差支ナシニ欧米人ト差別アル待遇ヲ

何等ノ言及ナシ六、改訂協商実施期

後ニ旅券ノ発給ヲ受ケタル限ハ本協商ニヨリ実施スヘキ制

二六四 八月二日 在オタワ松永総領事宛(電報)

者ニ適用

ルミュー協約改定ニ関シ閣議決定セルニヨリ

商議開始方訓令ノ件

第一九号

往電第一一号ニ関シ

セラレ度シ但シ 閣議決定セルニ付往電第一二及一三号ノ趣旨ニテ商議開始

シテ妻子ノ入国ニ充当スルコトトナリ得へキニ付交渉ノ比較的少数ナルモ今後ハ人道上ノ見地ヨリ制限数ヲ主トシ尚従来ノ例ニ依レハ家内婢僕及農業労働者ノ渡航数ハシ尚従来ノ制限数二百五十名ハ譲歩ノ限度ヲ示シタルモノ

カナダニ於ケル日本人移民制限問題 二六四

0

三八七

自縛ニ陥ラサル様御注意アリ度シ働者トニ共通ノモノトシ両者ノ間ニ平分スルカ如キ自縄関シ説明セラルル際ハ右制限数ヲ妻子ト家内婢僕農業労際此点ハ貴官ニ於テ御含置アリ度ク従テ右三百名ノ数ニ

口貴電第三項ニ六ケ月云々トアルハ如何ナル計算ニ基クヤ 算入シ通算シテ百五十ヲ超エシメサル様制限ス尚本項ノ 過渡的方法ノ下ニ行ハルル入国ハ旅券ノ出発有効期間タ ヨリ遡及的ニ起算シタル一年間ニ於ケル発給数中ニ之ヲ 成立後三ケ月以内ニ発給スル旅券数ハ右三ケ月満了ノ日 計画シ居ル者ニ対シ資格及数ノ制限ニヨリ急ニ不便ヲ与 前ニ旅券ヲ受ケタル者ハ現行協商ノ下ニ入国シ得 受クル者ニ新制限ヲ適用スルノ趣旨ナリ従テ右期間満了 ヘサル過渡的保護方法ナリ尤モ現行協商ノ下ニ於テモ数 トス右ハ主トシテ再入国及家族呼寄等ヲ新協商成立ノ際 不明ナルカ往電訓令案ハ商議成立後三ケ月以後ニ旅券ヲ 六ケ月ノ経過即チ協商成立後九ケ月ヲ以テ自然皆無ト 制限ヲ受ケ居ル家内婢僕及農業労働者ニ付テハ新協商 〈三付テモ誠意ヲ以テ濫用ニ亘ラサル様注意スルハ ノナルカ日本政府ハ右三ケ月ノ期間内ニ発給スル ル モノ

勿論ナリ

算スルノ方法ヲ取ルモ差支ナシ)
商成立後三ケ月満了ノ日ヨリ一年ヲ起算シテ計算ス務ノ制限ニ付テハ右満了ノ日ヨリ一年ヲ起算シテ計算スリ上ノ説明ニヨリテ明カナル如ク新協商ノ資格制限ハ協

四再渡航者ニ付テハ「ドミシル」ヲ有セサル者モ制限数以四再渡航者ニ付テハ「ドミシル」ヲ有セサル者モ制限数以

コトヲ適当トスヘシル者ニ対スル期間ニ準シ一定ノ再入国有効期間ヲ付スル

取極メ方尽力セラレ度シー律トシ且出来得ル限リ之ヲ大ナラシメ又延長シ得ル様ハ「ドミシル」ヲ有スル再渡航者ノ再入国有効期間ヲ可成

二六五 八月十六日(着) 幣原外務大臣宛(電報) 在オタワ松永総領事ヨリ

# ルミュー協約改定二関シ我ガ方対案ノ概要ヲ幣ニの「電力」

領政府外務次官ニ申入レノ件

第三七号

貴電第一九号ニ関シ

十三日外務次官ヲ訪ヒ本官ハ加奈陀政府ノ覚書ニ対スル回午三日外務次官ヲ訪ヒ本官ハ加奈陀政府ノ覚書ニ対スル回午の党のより、 カナダニ於ケル日本人移民制限問題 ニ六五 と カング」首相ニ面会ノ上口頭ヲ以テ帝国政府ノ対案ヲ開陳ンング」首相ニ面会ノ上口頭ヲ以テ帝国政府ノ対案ヲ開陳ンルがナル故其間ニ面会ハ或ハ困難ナラント思ヘト本件ハ首相ニ於テ非常ニ急キ居ラレタル故首相ノ都合ツキ次第面会相ニ於テ非常ニ急キ居ラレタル故首相ノ都合ツキ次第面会ノ事ニ日外務次官ヲ訪ヒ本官ハ加奈陀政府ノ覚書ニ対スル回十三日外務次官ヲ訪ヒ本官ハ加奈陀政府ノ覚書ニ対スル回十三日外務次官ヲ訪ヒ本官ハ加奈陀政府ノ覚書ニ対スル回十三日外務次官ヲ訪ヒ本官ハ加奈陀政府ノ覚書ニ対スル回

政府 鋭敏ニシテ国内ノ輿論ニ及ホス影響頗ル重大ナルニ付帝国 限ト為ル次第ナリ殊ニ現下我国民ハ移民問題ニ関 難キヲ忍ンテ対案ノ如キ制限ヲ加フルハ現状ニ対シ一大制 入国ヲ制限スルハ人道ニ反シ実ハ同意シ難キ処ナルモ今回 心牢固ナルニ付交渉至難ナラント評セリ本官ハ元来妻子ノ 寄者ノ入国時期ヲ条件トセサル事ノ二点ヲ最モ重視ス其他 官ハ考慮ノ上別段吾ニ不利ナル虞ナシト認メ我対案ニ於テ ヘタルニ同次官ハ右二点ハ本問題ノ最要点ニシテ首相ノ決 達シ置タシトテ対案ノ内容ヲ知ラン事ヲ希望シタルニ付本 駁スルノ要アル処帝国政府ハ可成此等ノ議論ヲ避ケ具体案 種アリ今直チニ覚書ヲ以テ回答スルトキハ此等ノ点ヲモ反 書ヲ以テ交付セラルル事出来マシヤト反問シタル ノ点ハ勉メテ加奈陀ノ提案ニ同意スル事ト為リ居レリト述 ハ移民入国数ヲ一年三百人トスル事及妻子入国 ハ可成同官ニ於テ帝国政府案ノ概要ヲ承知シ予メ首相ニ伝 ニ付懇談シ実際的解決ニ便シ然ル後ニ覚書ヲ以テ回答セン ト欲スル趣意ナラント思考スル旨ヲ答ヘタリ然ルニ同次官 加奈陀覚書中ニハ帝国政府ニ於テ見解ヲ異ニスル点モ種 ノ本問題ヲ重視スル ノ甚大ナル ハ加奈陀政府 ノ資格ハ呼 ルニ付本官 シ極メテ

首相ニ在ル事ナレハ何レ首相ニ会見ノ際挨拶アルヘシト云首相ニ在ル事ナレハ何レ首相ニ会見ノ際挨拶アルヘシト云上ナリト述ヘタリ次官ハ本件ハ政治的問題ニシテ其決定ハ

ルミュー協約改定二関シキング首相トノ商議二六六 八月二十三日(着) 幣原外務大臣宛(電報)

### 結果報告ノ件

糸男幸み

第四〇号

往電第三七号ニ関シ

ル様切望スル旨申入レタリ
一九日夜「キング」首相ニ会見ス予テ御訓令ノ趣旨ニ依リ十九日夜「キング」首相ニ会見ス予テ御訓令ノ趣旨ニ依リ北張ノ正当ナル事ヲ論シ他方我政府ノ立場ヲモ諒シ我対案ノ各項ヲ逐次陳ル事ヲ論シ他方我政府ノ立場ヲモ諒シ我対案ノ各項ヲ逐次陳ル事ヲ論シ他方我政府ノ立場ヲモ諒シ我対案ニ同意セラルル事ヲ論シ他方我政府ノ立場ヲモ諒シ我対案ニ同意セラルル様切望スル旨申入レタリ

ヲ容レントスル希望ヲ示シタル事ハ自分ノ非常ニ「アップ政府カ斯ノ如キ明確ナル回答ニ依リ努メテ加奈陀側ノ希望首相ハ黙々トシテ聴取シタルカ本官ノ陳述了ルヲ待チ帝国

半数以下ニ制限スル次第ナレハ一大制限ナリト説キタリ首 像シ妻子ノミヲ三百人入国セシムル事アリトスルモ従来ノ 限ヲ受ケサリシモノナリ今回妻子ヲ一定数以下ニ制限スル スト述ヘタリ本官ハ従来妻子ハ人道上ノ理由ニ依リ全然制 合ヲ定メサルニ付三百人ノ大部分ヲ妻子ニ振当テラル 国セル者ノ妻子ニ制限セントスルコトハ加奈陀側ノ最重視 次ニ首相ハ口ノ妻子入国資格ニ付テハ(脱)迄加奈陀ニ入 至ルヲ惧ル対案一ニハ到底同意スル事能ハスト固執セリ 述へ本官ハ右割当ハ到底我方ニテ同意スル能ハスト答ヘタ 割当ツル事ナラハ取極メ得可シト同席ノ外務次官ヲ顧ミテ 相ハ閣僚ト相談ヲ要スル儀ナレトモ日本政府ノ好意ニ酬 モアリ得可ク斯テハ妻子ヲ制限セントスル提案ノ趣旨ニ反 全然新ナル問題トシテ帝国政府ノ同意ヲ請ハント欲スル所 ス ナリ日本婦人ハ多産ナル故非常ニ日本人ノ人口増 ルニ首相ハ若シ一年三百人ノ妻子入国セハ十年ニ三千人ト ル為自分タケノ考ニテハ妻子百五十人家内婢僕百五十人ト シエー ル所ナリ此ノ点ハ ハ我方トシテハ非常ノ決心ナリ且仮リニ極端ノ場合ヲ想 ト」スル所ナリサレト対案厂ハ妻子ト其他ト 「ルミュウ」協約ノ解釈問題ト 加スルニ ル ユ

好意的考慮ヲ煩ハシタキ旨ヲ述ヘ更ニ一歩ヲ進メテ原案ニ タリ本官ハ以上□及□ノ点ハ我方ニ於テモ最重キヲ置ク所 固執シ且此ノ点ニ付テハ極メテ堅キ決心ヲ有スル旨ヲ述へ 比較セラルルコトハ首肯シ難シ我方ハ主義上欧米人ト同一 入国ヲ許サルル者ト雖之ニ対シ永久妻子同棲ノ機会ヲ剝奪 日本人ノミヲ差別待遇スルニ非スト答弁シタリ本官ハ将来 欧人ニ対シテモ入国ヲ拒絶セントスル程ナルヲ以テ決シテ ス又支那人及印度人ニハ現ニ絶対ニ入国ヲ禁止シ或種ノ南 承知ノ上入国シタル者ナレハ人道論ヲ以テ非難スル 能ヲ予メ承知スル者ニ限リ入国セシメラルレハ可ナリ ナリ且日本移民ニ限リ斯ル制限ヲ設クルコトハ日本ニ対ス ル スルコト ノ待遇ヲ要求スルモノナリト論シタルカ首相 差別待遇ナリトテ非難シタルニ首相ハ .棲ヲ認メサル趣意ナルカ極メテ人道ニ反シ苛酷ナル処置 ジ日本政府ノ同意ナキ場合ハ如何ニナルヘキヤト尋ネタ レハ帝国政府ハ到底原案ニ応スル能ハス是非トモ首相 ニ首相ハ巳ムヲ得ス移民法規ニ基キ妻子入国ヲ拒絶スル 述ヘタルニ付本官ハ右ハ将来ノ入国者ニ対シ妻子 0 ハ正義人道ニ反ス又日本移民ヲ支那人印度人等ニ カナダニ於ケル日本人移民制限問題 将来妻子入国ノ不 ハ飽迄所説ヲ ハ当ラ 斯ク

非移民トシテ取扱フ事ハ同意シ難シ非移民タル 官 ヨリハ寧ロ加奈陀側ノ処置ニ委スルヲ選フヤモ計 思考ス我カ政府ハ協商ニ依リ此ノ苛酷ナル待遇ニ同意セ 欲スト謂ヘリ、本官ハ将来入国者ノ妻子入国ヲ絶対ニ禁止 処置ヲ執ルコトトナル 取扱振ヲ取調ヘル 中ニハ行商人ノ如キモノ迄モ含マレタル実例有リ斯ル者ヲ 述ヘタルニ首相ハ従来商人及店員トシテ入国シタル 本協商ノ制限ヲ受ケサルモノナル事ヲ明確ニシ置キタシト リトノ事ナリシニ付商人旅行者学生又ハ銀行会社ノ店員ハ ルモ首相ハ前記以外ニ何等譲歩ノ色ヲ示スコトナカリキ ト詰リタルニ首相ハ去レハコソ協商ニ依リ解決センコト タリ本官ハ右ニ就テハ米国ニテ排日条項実施以来実際問題 ハ店員ノ資格ニ付テハ具体的標準ヲ設クル必要アリ 一ノ結果ヲ来スモノニシテ甚タ非友誼的ノコトナラスヤ 加奈陀覚書中ノ移民ノ意義ハ移民法ノ定義ニ従フ趣旨ナ ノ最憂慮ニ堪ヘサル所ナリトテ反覆首相ノ反省ヲ求メ シテ相当決定セル処アルヘキニ付参考ノ為米国ニ於ケ 如キ協商ハ帝国政府トシテ到底忍フ能ハサル所 事一案ナラント述へタリ ヘシト答ヘタリ本官ハ右ハ排斥 ヘキ 『リ難シ本 モノノ ナリ タ ŀ ン

会組織上ニ欠陥ヲ生スル惧アリト説キタリ

ヲ議論シ居レハ未タ確定セサルモ此処二週間位ニテ急ニ議 会解散ト為ルヤモ計リ難キ処其場合ニ応スル為政府ハ総選 会解散ト為ルヤモ計リ難キ処其場合ニ応スル為政府ハ総選 等ニ対スル一切ノ準備ヲ希望スル旨ヲ述ヘタルニ付本間題ハ がニハル連備ヲ希望スル旨ヲ述ヘタルニ付本間知の がニハル連備ヲ希望スル旨ヲ述ヘタルニ付本官ハ本 でモ之ニ応スル準備ヲ希望スル旨ヲ述ヘタルニ付本官ハ本 では、カーカ之ヲ政争ノ外ニ置ク考案ナカルヘキヤト間ヒタル処 でいるアルニ於ケル州議会選挙ニテ政府党惨敗シタル折柄ナレ のいあ・C州議員ノ向背ハ政府ニ取り至大ノ関係アリ政府ハ 本問題ノ為ニ領ノ総選挙ニ於テ失敗スル如キ「チャンス」 ヲ取ル能ハスト答ヘタリ

テ経済上B・C州民ノ強敵ナルノミナラス同化不能ノ為社意味スルモノニシテ好マサル処ナリ日本人ハ甚タ有能ニシト述へタルニ首相ハ日本婦人ノ入国ハ日本人人口ノ増加ヲト述へタルニ首相ハ日本婦人ノ入国ハ日本人人口ノ増加ヲリカニ時間ニ亘リ首相ト懇談的ニ種々議論ヲ上下シ其本官ハ約二時間ニ亘リ首相ト懇談的ニ種々議論ヲ上下シ其

ヲ一書ニ作ルコトト トシテ受ケサルモ其各項目ニ付テハ移民当局ノ攻究ニ付ス 覆首相ノ好意的考慮ヲ求メ置ケリ尚首相ハ我カ対案ヲ覚書 リ本官ハ極力対案ノ貫徹ニ努力シタルモ首相ノ決心ヲ動カ タルニ首相ハ実際ノ事情已ムヲ得サルニ出ツル旨ヲ答ヘタ ス能ハサリシヲ遺憾トス但シ退出ノ際ニモ日加親善ノ為反 テ人種的僻見ノ実在ヲ肯定セリ本官ハ首相自ラB・C州議 方ニ於テハ仏国系ノ移住ヲ排斥シ居ル事実アリB・C州民 杞憂ニ属スト信スル旨ヲ述ヘタリ首相ハ実ハ加奈陀ニ於ケ カ日本人ヲ排斥スルノ無理ナラサルヲ諒察セラレタシトシ ル テハ日本移民カ加奈陀ノ社会組織ヲ弱ムル如キコト ラレサルニ依ルモノニシテ両国民間ノ了解ヲ増進スルニ於 本官ハ移民カ多年努力ノ結果漸次経済的地歩ヲモ進ム 必要アリトノコトニ付二十日外務次官ト会見シ対案諸項 ノ唱フル議論ヲ裏書セラルルハ甚タ遺憾トスル旨ヲ述ヘ 英国系中ニハ仏国系ヲ甚シク忌厭スルモノアリ現ニ或地 |独リ日本移民ニ限ラス之ヲ以テ日本移民ノミヲ批難スル 当ラス又日本人ノ同化不能ハ未タ十分同化 ・セリ右以上首相ノ応対振リニテ御承知 ノ期間ヲ与 ・ハ全然 ル

相成ルへキ通リ先方ハ頑強ニ妻子入国ノ制限ヲ主張スルニモ」、口ニ付テハ我カ対案ヲ固持セント欲ス左レト先方ノテ議会解散ノ時期切迫シ然モ我カ対案ヲ容レサル場合ニハオ対案ノ成否如何ニ拘ラス先方ノ覚書ニ対シ我ニ於テ首肯カ対案ノ成否如何ニ拘ラス先方ノ覚書ニ対シ我ニ於テ首肯カ対案ノ成否如何ニ拘ラス先方ノ覚書ニ対シ我ニ於テ首肯スル能ハサル点ヲ反駁シ覚書ヲ以テ回答セサル時ハ先方ノ反本官ノ執ルヘキ通リ先方ハ政シ党書ヲ以テ回答セサル時ハ先方ノ反本官ノ執ルヘキ通リ先方ハ頑強ニ妻子入国ノ制限ヲ主張スルニ神成ルヘキ通リ先方ハ頑強ニ妻子入国ノ制限ヲ主張スルニテモ成ル可ク早目ニ御準備ヲ請フ

二六七 八月二十八日 幣原外務大臣宛(電報)

簡要点並ビニ同次官トノ会談ニツキ具申ノ件方対案へノ領首相回答ヲ認メタル外務次官書八月十九日ルミュー協約改定商議ニ於ケル我

一○ カナダニ於ケル日本人移民制限問題 二六七リ我カ対案ニ対スル首相ノ回答ヲ伝達シ度キ旨電話アリタニ十七日外務次官ヨリ目下避暑地滞在中ナル首相ノ命ニ依第四四号 (八月二十九~三十日接受)

ノ要点左ノ通リ
ア付言シ同日夕刻同次官ヨリ本官宛書面ヲ送付シ来レリ其ヲ付言シ同日夕刻同次官ヨリ本官宛書面ヲ以テ通知スヘキ旨ノ主ナル点ヲ口頭ニテ陳述シ追テ書面ヲ以テ通知スヘキ旨ルニ付往訪シタルニ次官ハ移民局長ト同席ニテ左記回答中

一、首相ハ日本政府ノ回答ヲ篤ト考慮セリ

人ノ渡航ヲ禁スルコト
に、首相ハ本問題中イイ再渡航ハ正当入国者ニ限ルコト/以写婚婦別人及農業労働者ノ呼寄願ニ関スル審査ノ慣行ヲ日本移民ニモ適用スルコト/以家内使決航者ハ出発前加奈陀移民官ノ証明ヲ得ルコト/以家内使ニ、首相ハ本問題中イイ再渡航ハ正当入国者ニ限ルコト/以再

ノ諸点ニ付彼我ノ一致ヲ見ルヲ欣幸トス

日本政府ニ於テ異存ナキ旨ヲ諒承ス且ツ本協商ニ抵触セサル限リ日本移民ニ適用スルコトニ三、加奈陀ノ一般的移民法規ハ欧米人ニ比シ差別待遇セス

サルコトニ異議ナシ民ニモ適用シ再渡航ノ場合之ヲ新移民入国数内ニ算入セ民ニモ適用シ再渡航ヲ許可スル慣行ナリ本慣行ヲ日本移四、在留五年以内ノモノモー時帰国ヲ必要トスル事由ヲ証

五、再渡航ノ有効期間及其延長方ニ付テハ英国臣民ニ関シ

ハ之ヲ延長シ得ルコトトスヘシ移民官ノ証明ハ十二ケ月間有効トシ且ツ相当ノ理由アレリ居レリ依テ日本移民ニハ英国臣民同様出発港ニ於ケルハ一時不在ノ事由ヲ証明シテ再入国ヲ許サルルコトトナテハ規定アレト外国人ニ関シテハ何等ナシ慣例上外国人テハ規定アレト外国人ニ関シテハ何等ナシ慣例上外国人

日本ノ対案ハ遺憾乍ラ同意シ難シ妻子入国資格ニ付入国時期ノ制限ヲ設ケサルコトトスル、@移民入国数ハ妻子ヲ含ミ一年三百人トスルコト及ゆ

意シ難シサレト移民法第二条(不明)項ニ列挙セルモノニ民ニ属スルモノヲ非移民トシテ取扱フコトハ遺憾乍ラ同民ニ属スルモノヲ非移民トシテ取扱フコトハ遺憾乍ラ同ス、旅行者学生商人及銀行会社ノ店員ヲ非移民トシテ取扱

ノニ永住スルモノニ非ス故ニ非移民トシテ取扱フニ異議ナ扱ハルヘク又日本会社ノ在外支店ノ店員ノ如キハ加奈陀扱ハルヘク又日本会社ノ在外支店ノ店員ノ如キハ加奈陀該当スルモノナラハ日本人モ他国人同様非移民トシテ取

要アルヘキ旨ヲ了承ス明ヲ取リツクヘキ手続停滯以前ニ帰国シタルモノニ対シ明ヲ取リツクヘキ手続停滯以前ニ帰国シタルモノニ対シ用スルコトニ異存ナシ又再渡航者ニシテ本協商ニ依リ証八、本協商ハ成立三ケ月以後旅券ノ発給ヲ受クルモノニ適

回答ニ接スルヲ得ハ幸甚ナリ九、九月一日ノ閣議ニ間ニ合フ様本回答ニ対シ日本政府・

スヘシ一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次

次官ハピムヲ得サレハ先夜ノ案ナラハ纏メ得ラルル如キ語シアリタル関係上一般社会ニ対シテハ却テ増加スル如キ誤シアリタル関係上一般社会ニ対シテハ却テ増加スル如キ誤シアリタル関係上一般社会ニ対シテハ却テ増加スル如キ誤ニ百人ト云フコトハ従来無制限ノ妻子ヲ将来制限数内ニ加フルニ至リシ事情ヲ説明スレハ大方ノ誤解ヲ防クコト難カラス之ハ加奈陀政府ノ責任ナラント述へタリラス之ハ加奈陀政府ノ責任ナラント述へタリラス之ハ加奈陀政府ノ責任ナラント述へタリ

二付テハ米国ノ実例ヲ参考シ細則的標準ヲ定メ得ル見込ナテ移民非移民ノ区別論ヲ生スルコトピムヲ得サルヘク之等サルカ商店営業ノ種類又ハ規模ノ大小ニ依リ実際日本トシキルカ商店営業ノ種類又ハ規模ノ大小ニ依リ実際日本トシトハ移民法ヲ排除スルコトトナリ欧州人ニモ与ヘ居ラサルトハ移民法ヲ排除スルコトトナリ欧州人ニモ与へ居ラサルトハ移民法ヲ排除スルコトナリ欧州人ニモ与へ居ラサルトハ移民法ヲ排除スルコトナリ欧州人ニモ与へ居ラサルトハ移民法ヲ誹クルコ

論ヲ生スル虞アリ之等ノ点ハ家族入国ノ不能ヲ承知シ居リ 及従来子トシテ入国シタルモノカ生長後日本ニ於テ結婚シ 案ニテ其ノ点ヲ譲歩シ来レルモノノ如シ左レハ結局ノ難関 既ニ先方ニ於テモ資格制限ノ実益大ナラサルヲ認メ今回内 案ヲ極力主張セハ実益上ノ損失ハ最モ軽少ナラント思考ス テノミ総数ヲ三百人トシ妻子其他ノ分配自由ナル 関スル時期ノ制限ハ原案ニ応スルコトニ譲歩シ入国数ニ付 以外ノ新入国者ハ極メテ少数ナルカ故ニ妻子入国ノ資格 我カ対案ヲ主張スヘキカ又ハ多少譲歩ノ余地アルヤト云フ 付テハ先方ノ同意ヲ得サル次第ナルカ右ニ付我方ハ最後迄 要スルニ我カ対案中ノ最要点タル入国数及妻子入国資格ニ ○号其ノ口) タルモノニ非サル故先方従来ノ議論ニ照ラセハ タル場合其ノ家族ノ入国ニ関シ何等規定ナキ故解釈上ノ争 文句ニ依ルトキハ従来加奈陀ニ生レタル子及将来生ルル子 十人限定説ヲ固執スルナラント予想セラルルヲ以テ最我方 ニ将来ハ妻子ノ入国ヲ其ノ他ノ者ニ比シ重視スル結果妻子 ニ於テ妻子入国資格ニ関スル制限ヲ譲歩スル場合ハ原案ノ ハ入国数ニテ先方ハ百五十人説又ハ総数三百人内妻子百五 家族入国ヲ拒絶シ得サル次第ナリ之ニ付テハ (往電第四 ロトノ対

気ヲ洩セリ

## $\overline{\circ}$ カナダニ於ケル日本人移民制限問題 二六八

政府ハ来週閣議後数日中ニ総選挙ヲ発表スル模様ナリ 回訓方電訓スヘキ旨答へ置キタリ最近ノ新聞ニ依レハ当国 方希望ノ如ク速ニ回答方困難ナラント思ヘト成ル可ク急速 急キ居レリ来週閣議前ニ日本政府ノ回答ヲ得ヘキヤト尋ネ キタルコトアリ終リニ次官ハ首相ニ於テ本件解決ヲ非常ニ 考ス此ノ点ハ先般次官ト会談ノ際本官ノ気付トシテ述へ置 先方ニ於テ異議ナキ旨ノ了解ヲ取リ置クコト然ルヘシト思 タルニ付本官ハ我カ政府ニ於テモ更ニ考慮ノ要アルヘク先

右ニ付何分ノ御電訓ヲ請フ

晩香坡へ転電セリ

二六八 九月五日 在オタワ松永総領事宛幣原外務大臣ヨリ (電報)

## 見解及ビ改定商議公表方法ニ関スル件 八月二十七日付領政府外務次官書簡へノ我方

第二五号

貴電第四四号ニ関シ

一、第四項及五項ニ関スル加奈陀政府ノ好意的考量ハ之ヲ 多トスルモ主要点ニ関スル彼我主張ノ距離ハ尚相当大ナ

**ዠ妻子ト其他ノ入国者間ニ制限数ヲ分割スルコト** ハ承諾

> ヲ甚タ困難ナラシム シ難シ如此割合ヲ定ムルコト ノ数ヲ過度ニ制限シタリト ノ感触ヲ強クシ政府ノ立場 ハ従来無制限ナリシ妻子

三九六

回妻子呼寄又ハ同伴資格ヲ入国時期ヲ以テ制限 有スル者ノミ有資格者トスルモ可ナリ 陀政府カ我方ノ主張ヲ認ムルニ於テハ「ドミシル」 加奈陀案ハ人道上承諾シ難シ但他ノ主要点ニツキ加奈 入国前ノ結婚者ニ限リ其家族ヲ呼寄セウルモノトスル シ若ク ヲ

社及商店ノ officials, proprietors 及 clerks モ含メ度シ 国政府ハ承認シ居ルモノニアラス)ニ限ラス加奈陀ニ於 已ムヲ得サルヘシ 但シ此ノ如キ会社商店ニツキ場合ニョリ一定ノ標準(例 テ相当ノ基礎ニ於テ普通商業ヲナシ又ハナサントスル会 如ク国際通商ニ従事スルモノ(此主張ハ条約ノ解釈上帝 必シモ米国ニ於ケル取扱ニ従フコトヲ欲セス米国主張ノ 非移民タル商人及店員ニ関シテハ可成従来ノ通リトシ ハ納税額資本及店舗ノ規模等ニョリ) ヲ定ムルコトハ

扱左ノ如シ 尚参考ノ為米国新移民法第三条第六項ニ関スル米国側取

一商業トハ international ノ大小ヲ問ハス trade ヲ云フ但シ資本及規模

口右条項ノ下ニ入国シウル者ノ種類ハ右営業ノ主体 行会社ノ場合ハ重役) ノ外

貴電第四○号ニ関シ貴官ハ必要ニ応シ左記趣旨ヲ首相 petty clerks ヲ含ム) 仰日本新聞記者 会社、 商店ノ使用人(bookkeeper 如 #

曩ニモ説明セル通リ現行協商以上ニ移民制限ヲ厳重ナラ ニ申入レ其考量ヲ促サレ度シ

府トシテモ之ヲ公表スル積ナル 程度ニ享有シ得ヘキ権利ヲ大ニ自制スル我政府ノ困難ナ 関係ノ大局ニ顧ミ責任ヲ以テ改訂ニ応セントスル次第ニ 国者ニ限リ妻子呼寄ノ資格アリトスルカ如キ自制ヲナス ル立場ニ付テハ充分了解セラレ度シ今回ノ協商ハ帝国政 シテ加奈陀政府ノ立場モサルコトナカラ他ノ諸国ト同一 シムルハ帝国政府ノ頗ル困難トスル所ナルカ政府ハ両国 ヲ以テ一定時期以前ノ入

二日 本件改訂協商ニ関スル文書ヲ公表スルニ方リ五月二十 ノ加奈陀政府覚書ヲ発端トスルトキハ当方ニ於テモ 0 カナダニ於ケル日本人移民制限問題 二六九

輿論ノ関係上不可能ナリ

(欄外記入) 取交ハシテ事ヲ了シ以テ公表ヲ簡単ニシ度シト思考ス 如シ云々」ノ趣旨ヲ冒頭トシ協商ノ内容ノミヲ記載シタ 加奈陀政府トノ間ニ重ネタル会談ノ結果ヲ録スレハ左ノ コトトナリ面白カラサルニ付協商改定ノ暁ニハ 同一視シ日本文化ノ実相ヲ了解シ居ラサル点等ニ言及セ 限リ再入国及妻子呼寄ヲ許ストノ加奈陀側ノ曲解∷首相 右覚書記載ノ事項例へハ台現行協商ノ成立前ノ入国者ニ ル単純ナル ルヲ得ス従テ終局ニ関係ナキ不必要ノ議論ヲ公表スル 「プライスベル」トノ会見記中首相カ凡テノ東洋人ヲ confirmation ヲ貴官ト加奈陀政府トノ間 「本官ト

之ハ佐分利局長ノ意見ニ基

九月十日 幣原外務大臣宛在オタワ松永総領事ヨ

## 政府回答写送付ノ件 移民問題ニ関スル我ガ方回答要旨及ビカナダ

付属書一 八月二十七日付スケルトン外務次官ヨリ松永 八月十九日キング首相ト松永総領事間ノ会見 総領事宛書簡写 内容ニツキカナダ側デ作成セル覚書

(十月一日接受)

大正十四年九月十日

機密公第七号

在オタワ

総領事 松永 直吉(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

移民問題ニ関スル我回答要旨ノ一ツ書及加奈

陀政府ノ回答ノ写送付ノ件

料トナリタルモノナルニ付御了承相成度 料トナリタルモノナルニ付御了承相成度 料トナリタルモノナルニ付御了承相成度 料トナリタルモノナルニ付御了承相成度 料トナリタルモノナルニ付御了承相成度 料トナリタルモノナルニ付御了承相成度 料トナリタルモノナルニ付御了承相成度 料トナリタルモノナルニ付御了承相成度 料トナリタルモノナルニ付御了承相成度 料トナリタルモノナルニ付御了承相成度

而シテ前記我回答ニ対シ八月二十七日加奈陀政府ヨリ回答

別紙甲号及乙号各写一部送付旁右申進ス

本信写送付先 在晚香坡領事

(付書書一)

側ニ於テ作成セル覚書八月十九日キング首相ト松永総領事間会見内容ニツキカナダ

INTERVIEW ON JAPANESE IMMIGRATION.

August 19, 1925

On Thursday, August 13, the Consul-General of Japan, Mr. Matsunaga, informed the Under-Secre-

Consul-General view at Laurier The Prime Minister accordingly arranged an interto communicate them orally to the Prime Minister. memorandum on immigration, and that he desired reference to the questions raised in the Canadian ceived instructions from of State for External Affairs that he had reand House on August 19, at which the the his Under-Secretary Government were with

the Canadian Government and the situation on possible to make concessions to meet the wishes ever, considered the extent to which it Japan regarded the question of restrictions on immication might be submitted later if occasion required. on the understanding that a more formal communito communicate the views of his Government orally, Mr. Matsunaga stated that he had been instructed stated that his Government and the people as a very serious matter. They had, howmight be the of  $_{\mathrm{of}}$ 

Pacific coast, and were prepared to suggest the following counter-proposals.

1) Total Number of Immigrants.

The agreement to be revised to provide that the total number of immigrants admitted to Canada would not exceed 300 in a year, these to include:

- a) Wives and children of Japanese resident in Canada who would fetch or send for their families.
- (b) Bona fide domestic servants, male and female.
- (c) Bona fide agricultural labourers.

It is to be understood that the distribution of these classes would be unrestricted, so long as the total of (a), (b), and (c) did not exceed 300.

While the Japanese Government must retain the opinion that so-called "picture brides" are legal wives, it is prepared to agree that they shall not be included in future among the wives admissible under the above arrangement.

It is further agreed that the term "children" is to be restricted to persons under 18 years of age.

(2) Time Limit on Right to Bring in Wives and Children.

It is proposed that no time limit should be set on the right of Japanese immigrants resident in Canada to bring wives and children in accordance with the above understanding, and that those who enter Canada after the new agreement comes into force should be as fully entitled to bring in their families as those who have entered before the agreement. Mr. Matsunaga stated that his Government considered that the proposal to deny to Japanese admitted to Canada after 1925 the right to bring in wives and children was objectionable on the following grounds:

- (i) because repugnant to the natural laws of social justice and humanity, and
- (ii) because constituting a discrimination which had no parallel in the case of European immi-

grants.

(iii) because in practical working the right would not prove of great importance; the natural outcome of the agreement to include wives and children of residents along with domestic servants and agricultural labourers in the number admissible each year would be that the first class would increase and the other classes decrease, so that there would be fewer male immigrants who would be in a position to send for wives or families in future.

Mr. Matsunaga added, with reference to the Prime Minister's observation that Japanese immigrants coming to Canada after 1925 would do so in full knowledge of the fact that they could not expect to bring in wives or families, that this would not be so in the case of men who had been born in Canada or who came to Canada as children, and that he assumed therefore, there would be no objection to the

latter being free to marry wives in Japan and bring them to Canada.

- Conditions for Readmission of Returning Immigrants.
- (a) The Japanese Government would be prepared to agree that only those persons who had legally been admitted to Canada within the meaning of the Immigration Act should be entitled to readmission.
- (b) The Japanese Government would agree further to the proposal that immigrants returning to Japan should be required to secure a certificate from the Canadian immigration authorities before sailing as a condition of readmissibility.
- (c) The Japanese Government understands that, while full Canadian domicile can be acquired only by five years' residence, it is the practice of the Canadian immigration authorities to per-

- mit foreign immigrants who have resided in Canada for a shorter period, and who establish the necessity to return to their country of birth for a temporary purpose, to be readmitted as returning immigrants; it assumes that the same practice would be applicable to Japanese immigrants, who would therefore not be included in the number of 300 set out under (1) above.
- the present practice as to the length of time immigrants who have returned to the country of their birth may remain before losing their right to return to Canada, and as to the procedure which is necessary for extension of this time; it assumes that the same practice would be applicable in the case of Japanese immigrants.
- (4) Pre-investigation.

The Japanese Government has no objection to the existing practice of the Canadian immigration au-

カナダニ於ケル日本人移民制限問題 二六九

thorities investigating the bona fides of applications for admission of domestic servants and agricultural labourers, before a certificate is issued as the basis for a consular visa, being applied in the case of Japanese immigrants of these classes.

(5) Applicability of Immigration Law

The Japanese Government has no objection to the application of the general immigration law of Canada to Japanese immigrants, so far as it is applied without discrimination to Europeans and Americans as well, and in so far as it is not in conflict with the terms of this special agreement.

(6) Scope of the Term "Immigrant".

If "immigrant" is used in the sense of the definition in the Immigration Act, it is feared that merchants, tourists, students, and clerks of commercial firms and houses, might come within this classification. The Japanese Government considers that they are not labourers, and that they should be classed

definitely as non-immigrants in this agreement

(7) Time of Application of New Agreement.

It is proposed that the restrictions involved in the new agreement as regards the issue of passports should come into forth three months after the agreement is concluded.

It is pointed out that some special arrangement will be necessary to permit Japanese who had returned to Japan before the special arrangements for procuring a certificate had been put into force, to return to Canada.

It is further pointed out that, as Japanese passports are valid for six months after issue, the two systems would overlap for a short time.

The Prime Minister expressed his appreciation of the evident desire of the Japanese Government to consider the question carefully, and to meet the situation which had developed. He believed it would be possible to come to an agreement on most of the

points covered. He considered it necessary, however, to point out at once certain respects in which it was altogether probable that the counter-proposals which had been made could not be accepted by the Canadian Government:

- (1) The suggestion for unrestricted distribution of the three classes of immigrants would be interpreted by public opinion in Western Canada as indicating both the possibility and the intention of sending in a very large proportion of female immigrants.
- (2) He considered that no hardship would be imposed on Japanese immigrants coming to this country hereafter if they understood before coming that they were not to have the right to send for or to bring in wives and children.
- (3) The definition of "immigrant" would have to be considered carefully. Probably the United States practice in this case could be accepted.

(付属書二)

八月二十七日付松永総領事宛スケルトン外務次官書翰

August 27, 1925

My dear Mr. Matsunaga:

I am directed by the Prime Minister to state that he has considered with care the observations which you conveyed to him last week on behalf of your Government, on the subject of Japanese immigration into Canada.

The Prime Minister notes with much pleasure that the Governments of Japan and of Canada are in full agreement upon several phases of the question, including the understanding that only persons previously legally admitted to Canada are to be entitled to readmission; that immigrants proceeding to Japan with the intention of returning to Canada should obtain certificates from the Canadian immigration authorities before sailing; that the existing practice

of pre-investigating applications for the admission to Canada of domestic servants and agricultural workers should apply in the case of Japanese immigrants of these classes; that the term "children" shall mean persons under eighteen years of age; and that so-called picture brides will not be included in future among the wives admissible under the agreement.

It is noted that the Japanese Government has no objection to the application of the general immigration law of Canada to Japanese immigrants, so far as it is applied without discrimination to Europeans and Americans as well, and in so far as it is not in conflict with the terms of this special agreement. The Canadian Government believes that the Government of Japan will agree that it would not be possible for Canada or any other country to relinquish its right to apply the immigration law of the country to all comers, subject of course to the provisions of any special agreement.

to Canada immigrants who have resided in of the Canadian immigration authorities to immigrants as well. standing country, the Prime Minister states that this underdomicile, but who give evidence of some necessity for less Government of Japan understands, it is the would not be included in the number annually adwhich would be applicable in the case of Japanese which required their temporary return to their native With reference to your inquiry whether, as the correctly represents than the five On returning, such immigrants years required to the present practice, practice Canada

With reference to the further inquiry as to the length of time immigrants who have returned to the country of their birth may remain before losing their right to return to Canada, and as to the procedure necessary for extension of this period, the Prime Minister states that in the case of British subjects

application to the issuing agent months, and should be extensible, if warranted on of embarkation should be valid for a period of twelve cates issued by the Immigration Agent at the port granted to British subjects, namely, that the certifipurpose. ing that their practice, aliens are allowed to return upon establishthat in the case of aliens no limit is set by law. elsewhere in the British Empire or by naturalizathe period is set by law at twelve months, similar It is absence has been for a temporary consideration proposed to grant Japanese immito that at present but In

On the proposals as to the inclusion of women and children in the number of 150 admissible annually, and as to the time limit upon the right of immigrants to bring in wives and families, it is noted that the Government of Japan suggests certain counter-proposals, namely, that the figure in the first case should be set at 300, with unrestricted distribu-

sive figure of 150. posal as to unrestricted distribution within the incluall other proposals are agreed upon, the Canadian arriving hereafter who are already married should at 150, would be prepared to agree that immigrants adhering to its proposal to set the inclusive figure as possible, and to facilitate an early conclusion of tion, and that no time limit whatever should be set. waive the suggested time limit for single as well as Government be entitled to bring in or send for their families. however, to meet the Japanese possible to accept this counter-proposal. The Prime Minister regrets that it agreement, the married immigrants, and also to accept the would be Government of prepared to go further Government as far Canada, would not be In order, while pro-

It is noted, further, that the Japanese Government proposes that tourists, students, merchants and clerks of commercial firms and houses should be

only classes of immigrants now generally admissible of restricting immigration of town-workers. years have led to the adoption of a general policy should be noted, further, as was indicated in our students, professors, lawyers, physicians, ministers diplomatic and consular officials, tourists, university unless belonging to certain specified classes, e. classifies as immigrants all persons entering Canada, regrets that it would not be possible to depart from admissible as non-immigrants on the same basis as Japanese coming within the above mentioned classiare agricultural labourers and domestic servants. dustrial situation in Canada during the past twenty communication of May last, that changes in the intemporary exercise of their respective callings. of religion, commercial travellers, etc., entering for as non-immigrants. (Immigration Act, of the Immigration Sect. 2(g)) would be The Prime Minister Act, which The à Ιt

persons of other nationalities. Recognizing, further, that Japanese firms with branches abroad sometimes find it desirable to transfer officials to these branches for temporary periods, the Canadian Government would be prepared to classify such persons as non-immigrants, on presentation of passports from the Japanese Government establishing their status and under regulations to be agreed upon.

As to the time of application of the revised agreement, while the Canadian Government would prefer that it should go into force when concluded, it is prepared to accept the proposal that the issue of passports should continue on the old basis for three months thereafter. It is noted that such Japanese passports are valid for six months, and that it will be necessary to issue instructions to provide for readmission of immigrants who had left for Japan before the special arrangements for procuring a certificate went into force.

The Prime Minister would be very greatly obliged if the Government of Japan could indicate its reply in time for consideration at the Cabinet meeting to be held on Tuesday, September 1. He notes that he averted a discussion of the question during the recent session of Parliament by undertaking to make very shortly after the session a public statement as to the situation. He adds that he would desire to discuss with you in advance the time and form of any public statement as to the revised agreement.

Yours sincerely,

(Signed) O.D. Skelton

Under-Secretary of State for

External Affairs

N. Matsunaga, Esq.,

Consul-General of Japan,

Ottawa

二七〇 九月十一日 幣原外務大臣宛(電報) 在オタワ松永総領事ヨリ

ルミュー協約改定二関シ領政府外務次官ト会一七〇一九月十一日「幣原外務大臣宛(電報)

一〇 カナダニ於ケル日本人移民制限問題 ニセロ

#### 談ノル

第四八号 (九月十二日~十三日接受)第四八号 (九月十二日~十三日接受)第四八号 (九月十二日~十三日接受)第四八号 (九月十二日~十三日接受)第四八号 (九月十二日~十三日接受)第四八号 (九月十二日~十三日接受)第四八号 (九月十二日~十三日接受)第四八号 (九月十二日~十三日接受)第四八号 (九月十二日~十三日接受)第四八号 (九月十二日~十三日接受)第四八号

レモ我ニ於テ承諾シ難キ旨ヲ申入タリハ同伴資格ヲ入国時期又ハ既婚未婚ニヨリ制限スル事ハ何子ト其他ノモノトノ間ニ制限数ヲ分割スル事卬妻子呼寄又円依テ本官ハ貴電第一項及第三項御訓令ノ趣旨ニ依リイイ妻

スルヲ可ナリトアルモ此ノ程度ノ譲歩ニテ主要点ニ関シ先認ムルニ於テハ「ドミシル」ヲ有スルモノノミヲ有資格ト而シテ仰ニ関スル御訓令中ニハ他ノ主要点ニツキ我主張ヲ

ヲ差空ヘタリカニ要取難ト思考シタルニ付此点ハ今回ハ態ト申入

ヲ首相ニ伝達スヘシト述ヘタリ次第ナルカ本件ハ首相ノ決裁ニ属スルモノナレハ申入ノ儘承諾ヲ得サリシ次第ニテ自分ハ卒直ニ云ヘハ甚タ失望セシ次官ハ右本官申入ノ如クナレハ加奈陀政府ノ譲歩案ハ全部

二非スト答へタリ二非スト答へタリ国ヲ許スコトハ加奈陀ノ自由ニシテ何等条約ニ反スルモノルモノニシテ移民ノ範囲ヲ定義シ一定種類ノ移民ニ限リ入ルモノニシテ移民ノ範囲ヲ定義シ一定種類ノ移民ニ限リ入ルモノニシテ移民メシルサルヲ得スト論シタルニ次官ハ通働者ニ非ス移民法上移民ト認メラルルモノモ通商条約上居

二七 九月十六日 在オタワ松永総領事宛(電報)

改定商議急速解決ノタメ我ガ方譲歩案訓令

ノ

第二九号

貴電第四八号ニ関シ

案セラレタシ認シ得サルハ既電ノ通リ)往電第二五号一項ノロト共ニ提付(但シ制限数ヲ妻子ト其他ノ入国者間ニ分割スル事ヲ承婢僕及農業労働者ノ制限数ヲ二百五十ニ減スルモ可ナルニ如奈陀側特殊ノ事情ニ鑑ミ本件急速解決ノ為メ妻子、家内

事宛電報第三〇号ニョリ追加 編註 「例へハ」ヨリ「一案ナルヘキモ」迄外務大臣ヨリ総領

コセコ 二十五日 幣原外務大臣宛(電報)

# 一日領政府外務次官トノ商議結果報告ノ件ルミュー協約改定ニ関スル九月十八日、二十

察ノ通先方ハ加奈陀ニ定着スル商人ハ一般移民法トノ関係保スルコトトシタルモ後段御申越シノ商人ニ関シテハ御推前ニ我レヨリ提案スルコト面白カラサルニ付同案ハ暫ク留第一、貴電第二九号前段御申越ノ制限数ヲ二百五十ニ譲歩第五〇号 (九月二十六日~二十七日接受)

本人ニ対シテノミ認ムルコトヲ難シトスル次第ナリト云へ 属スル商人ノ入国ハ現ニ他国人ニ対シテ認メ居ラサル 所外務次官ハ我申入レノ趣旨ハ充分諒解スルモ何分移民ニ 冒頭トシ商人ハ加奈陀移民法ニ依リ其移民タルト非移民タニアラス従来通ノ取扱ヒヲ維持セントスル外他意ナキ旨ヲ 商人ニ関スル我申入レハ何等新規ノ事項ヲ要求シタル 機トシ更ニ先方ノ注意ヲ喚起ノ為十八日外務次官ヲ訪問 上入国不能ナリト主張シ居ルモノナルニ付今回ノ御電訓 令ヲ適用セサル旨ノ規定アリ日本商人ノ入国ヲ認ム 同年総督令一八二号末段ニ移民協約上各国民ニ対シテハ同 スル商人ニテモ入国可能ナル義ナレハ我申入レニ同意セラー月三十一日総督令百八十三号ニ依レハ米国人ハ移民ニ属 リ依テ本官ハ欧州移民ノ種類ヲ制限セル一千九百二十三年 コト尚加奈陀ニ定着スル商人カ移民法上移民トシテ取扱 へキ商人ノ範囲ニ就キ一定ノ標準ヲ設クルコトハ異存ナキ トニ拘ラス協商ノ制限以外ニ置クヘキコト但入国セシム ルトモ独リ日本商人ノミヲ認ムルト云フコトニアラス亦 ルコトハ異存ナキコト等御来示ノ趣旨ヲ詳細説明シタル 現行法規上モ支障ナカル ヘシト述ヘタルニ次官ハ米国 ル 故日 モ コト シ ヲ ハ 1

> 第二、九月二十一日次官ノ求メニ依リ往訪シタルニ旅 加奈陀ト経済上殆ト一体ヲ為ス故米国ノ例ニ做ヒ難シ又欧 述ヘラルルモ其点ハ加奈陀政府モ同様当二月ニハ「ルミュ 日本政府ハ輿論ノ関係モアリ政府ノ立場ノ困難ナルコトヲ 本官ハ尚充分考慮ヲ求ムル旨ヲ述ヘテ退出シタリ 州商人以上日本商人ヲ待遇スルコトハ困難ナリト答 阻止スル能ハス二、サレト再考ノ上左ノ修正案ヲ提出ス 民ニ対シテモ一層ノ制限ヲ必要トスルナリ又B・C州 タルモ近年厳重ナル制限ヲ課スルコトト ノ首相(次選挙ノ為各地遊説中)ヨリ九月十日ノ我申入レ シ之レハ加奈陀政府トシテ譲歩シ得ル最大限度 本移民ノ絶対排斥ヲ主張シ居レリ政府ハB・C州 (州政府ニ対スル)ニ対シ回答スへキ旨訓令アリタリトテ 」協商成立当時ハ欧州移民ニ対シテハ全然門戸ヲ開放シ ナレリ従テ日本移 ナリ ノ意思ヲ ^ タリ 行先 ハ日

用人トスルコト(川妻子呼寄ノ資格ニ依リ入国時期ノ制限ハ撤回スルコト)

シテ入国セシムルコト入国セシムへキ商人ノ範囲ニ付テハ商人ハ移民法第四条ノ規定ニ依リ移民大臣ノ許可書ヲ発

## ハ一定ノ標準ヲ協議決定スルコト

認メ居ラスト云フモ一九二四年移民省年報掲載移民入国統 シ「ハ」案ハ到底我ニ於テ同意スル能ハサル旨ヲ述へ前記 ス移民法第四条ニ依ル許可ハ一定期間ノ入国ニ限定スルモル商人ニ対シテハ無用ノ煩累ヲ与フルコトトナルノミナラ 加奈陀修正案ハ我主張ト離ルルコト尚甚大ナリト述へ 国時期ノ制限ヲ付セサルコトハ我カ主張ノ主眼ナリ今回 生スル次第ナリト答ヘタリ本官ハ制限数三百分配自 案(三○○ヲ妻子ト其他ニ平分)ハ入国時期ノ制限ヲ設 第四○号)三百人ヨリ少数ナリト述ヘタルニ次官ハ当国 右先方回答中「ロ」ニ付本官ハ八月十九日首相対案(往電 ノナルニ付移民ニ属スル商人ノ入国トハ趣旨相容レサル 「ハ」ニ付テハ斯カル手続ヲ採用スルトキハ非移民ニ属ス ハ欧州人同様一般移民法ノ適用ヲ受クヘキコト 三於テ到底同意シ難キ旨ヲ力説シタルカ次官ハ商人及店 八日説明シタル趣旨ヲ再三繰返シテ申入レ我カ商人ニ関 コトヲ条件トセリ今回条件ヲ撤回スル故制限数ニ差異ヲ 従来ノ協定及取扱振ヲ変更シ之ニ制限ヲ加フルコトハ 0 州人ニ対シテハ総督令ニテ商人及店員ノ入国ヲ カナダニ於ケル日本人移民制限問題 ーヲ固執セ 由ト入 Ħ 可 ij  $\overline{j}$ ク ラ

> ルモ首相帰朝次第(脱)シタキ旨申入レ置キタリ 当局ニ問合ノ上答フ可シト応酬セリ本官ハ次官ト長時間ニ 可リテ問答議論シタルモ次官ハ首相ノ訓令ヲ伝フルニ過キ 可リテ問答議論シタルモ次官ハ首相ノ訓令ヲ伝フルニ過キ サル故結局双方トモ各自ノ趣旨ヲ明ニスルニ止ル次第ナリ 首相ハ本月五日以来各地ニ東奔西走シ殆ント当地ニアラサ がは、カントとの別で、カントとの別で、カントと は、アラサ

対スル御回電ヲ俟チ提案ス可シ尤御回電前ト雖首相ト面 リ制限数三百内妻子二百其ノ他百トシ入国時期 十人案ヲ提出スヘキ時期ニ達シタリト思考スルニ付本電 ヲ提出スルノ外ナカル可ク貴電第二九号前段ニ依ル二百五 第三、前記回答モアリ本件進捗ノ為此度ハ我方ニテ譲歩案 交渉ハ自然停頓スヘク更ニ局面展開ノ必要アラハ双方ヨ .機ヲ得ハ場合ニ依リ本官一個ノ考トシテ同案ヲ提案スル ト思考スルモ入国時期制限ハ主義上面白カラサル関係ア 分配自由ヲ主張シ入国時期ノ制限ヲ同意スルコト 御考慮相成様致シタク此場合実益上ョリ云へハ制限数三 少シ宛歩寄リノ外ナカル可キニ付其ノ場合ノ提案ニ付テ トトス可シ然ルニ右二百五十人案ニ先方同意セサル場合 ノ制限 ・一案ナ ヲ設 会 =

ケサルコトノ如キ案等ニ付御考究ヲ請フ

難キヤニ思考セラル 居ル次第ニシテ場合ニ依リ此点ニ関シ先方ノ注意ヲ喚起ス リ居レリ故ニ支那商人ノ入国モ右ノ程度ニ於テハ之ヲ認メ 資本額二千五百弗以上ヲ有シ支那加奈陀間ノ貿易ニ従事ス 外シ居ル処商人ノ範囲ハ命令ヲ以テ規定シ右規定ニ依レハ モ頑強ナラント想像セラル尚支那人移民法中ニハ商人ハ除 商人及店員ニ付テハ我方ハ現状維持 ヲ紛糾セシムル虞アルニ付之ヲ指摘スルノ得失俄ニ判断シ ル者ニ限定シ且店員其ノ他ノ使用人等ハ含マサルコトトナ シ居ラサルニ於テハ ル可シト思考スルモ事実果シテ右商人ニ対シ其ノ入国ヲ許 コト然ル可シト思考スルモ商業ノ種類及店員ニ関シ議論 (此点ハ充分調査スヘシ)先方ノ主張 ノ主張ヲ飽迄固持シ然

右ニ付何分ノ儀御電訓ヲ請フ

晩香坡へ暗送セリ

貴電第二五号二九号及三○号並ニ往電第四八号及四九号

晩香坡へ暗送セリ

二七三 十月一日 在オタワ松永総領事宛(電報)幣原外務大臣ヨリ

三、第二項ノハ移民法第四条ヲ我非移民商人ニ適用スル 同条ハ移民商人ノ取扱ト両立セサルモノト思考ス 厳重ニ失スルノミナラス商機上ヨリ見ルモ承認シ難ク又 スルヲ得ス為念 貴電末段ノ支那商人ノ例ハ引用ヲ見合セラレ度シ 妻子同伴及呼寄ニ関スル入国時期ノ制限ハ絶対ニ同意 /

### 二七四 十月四日 幣原外務大臣宛(電報)在オタワ松永総領事ヨリ

# 入国制限数修正方及ビ商人入国取扱ニツキ申

第五一号

五〇ヲ越エサルコト現行ノ通)妻子呼寄ニ付テハ入国時期 スヘシ但シ妻子ト其他ノ分配ハ自由トシ(尤モ労働者ハー (分帝国政府ハ曩ニ提出セル対案以上ニ我移民ヲ制限スル ノ制限ヲ設ケサルコト ト至難ナルモ商議ノ進捗ニ資スル為制限数ヲ二五〇ニ修正 ⊖貴電第三一号ニ関シ十月二日外務次官ニ面会シ コ

四商人ニ付テハ移民法第四条ニ依ラス現協約ノ下ニ於ケル ト同様ニ其ノ入(国)ヲ認メラレ度シ但シ其 カナダニ於ケル日本人移民制限問題 二七四 ノ範囲ニ付テ

### ルミュー 協約改定商議ニ関シ訓電ノ件

第三一号

貴電第五〇号ニ関シ

一、商人ノ入国ハ総督令第一八三号トハ関係ナシニ現行協 商ノ下ニ実行シ来レル所ニモアリ我方ニテハ他ノ移民ニ 様尽力アリ度シ 改セストモ現行協商ノ商人ノ入国ヲ継続シウル筈ナルニ 付右篤ト説明ノ上移民タル商人ノ入国ヲ可能ナラシム シテハ総督令第一八二及一八三号ノ関係上別段法令ヲ変 我ニ特例ヲ認ムル丈ケノ妥協ヲ先方ニ要望シ度ク先方ト ナルヲ以テ少クトモ一定標準ノ移民タル商人ノ入国ニ付 付テ他国移民ニ類例ヲ見サル制限ニ同意セントスルモノ

二、第二項ノロニ対シテハ往電第二九号前段ノ趣旨ニヨリ 案ヲ否認シ得サル破目ニ陥ル虞アルニ付右貴電ノ案ハ先 方新案印ノ如ク制限数ヲ一層減少シ而モ之ヲ分割スル 撤廃妻子二百其他百人案ハ軽々ニ之ヲ提案スルトキハ先 二百五十人ニテ話ヲ進メラレ度シ貴電第三項ノ入国時期 ニ限リ提案セラルルコトト 方ニ於テ其ママ同意確実ナリトノ見込充分ツキタル場合 シ度シ

ヲ申入レタリ次官ハ目下西部諸州遊説中ナル首相ニ右申入 ヲ答ヘタリ ノ要領ヲ電報シ何分ノ回訓アリ次第本官へ通知スヘキ旨 一定ノ標準ヲ設クルモ差支ナキコト

例ニ関スル適当ノ資料ヲ有セサルニ付我具体案作成ニ付テ 際ノ事情ニ応スルコト必要ナル処当館ニ於テハ前述ノ通実 範囲ニ関シ具体的標準ヲ協議スル要アルヘク而シテ右ハ実 別ニ取扱上ノ標準ヲ有セサルモ晩香坡領事館ニテハ時ニ実 居ルヤト問ヘリ右ニ対シ本官ハ本官管轄内ニハ日本商人ノ テハ先方ニ於テ商人ニ関スル我主張ニ同意スル場合ハ其ノ ルナラント思考スルニ付取調へ置クヘシト答へ置キタリ就 際問題ヲ生スヘク同館ニ於テハ多分何等カノ標準ヲ有シ居 在住スル者僅少ナル故此ノ点ニ関スル実例極メテ稀ニシテ ル旨ヲ述ヘタルカ次官ハ現在ハ如何ナル標準ニテ取扱ハレ ニ関スル標準ニ付テハ本官ニ於テ末タ具体案ヲ有シ居ラサ 口前項印ノ商人ニ関スル会談中入国セシムヘキ商人ノ範囲 在晚香坡領事ト協議スルトスへシ

晩香坡へ暗送セリ

四四四四

二七五 十二月五日 幣原外務大臣宛 在オタワ松永総領事ヨリ

# ルミュー協約改定商議ノ現状ニ関シ報告ノ件

1. 一 甘油豆罗芹蒿(斑斗:同3幸会)作

(十二月二十八日接受)

大正十四年十二月五日

機密公第八号

在オタワ

総領事 松永 直吉(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

移民問題交渉ノ現状ニ関スル件

ヲ維持シ可然ト思考ス

事館五一号報告ノ通リ十月二日本官「スケルトン」次官ニ電第五一号報告ノ通リ十月二日本官「スケルトン」次官ニ電第五一号報告ノ通リ十月二日本官「スケルトン」次官ニ電第五一号報告ノ通リ十月二日本官「スケルトン」次官ニ

ルト他面選挙関係ニ於テモ日本移民問題ヲ速決スヘキ実際日総選挙施行当日迄各地ニ東奔西走シ選挙演説ニ没頭シタ事情ヲ想像スルニ「キング」首相ハ九月初以来十月二十九先方カ前記十月二日ノ我申入ニ対シ今日迄回答ヲ遅延セル

選挙後現下ノ政情ニ関連スル所アルモノノ如シル加奈陀政府ノ立場ヲ概説シ且円満ニ解決シタルモ本件交外ニ於テハ反対党ノ為利用サレタリト付言シタルモ本件交ト希望ヲ述ヘタル際本件未解決ノ為最近総選挙ノ際B・Cト希望ヲ述ヘタル際本件未解決ノ為最近総選挙ノ際B・Cト希望ヲ述ヘタル際本件未解決ノ為最近総選挙ノ際B・Cトインの要ヲ生セサリシニ由ルモノナラム

即チ総選挙ノ結果保守党下院ノ最大党トナリ自由党(政府即チ総選挙ノ結果保守党下院ノ最大党トナリ自由党(政府川を設立、コトナク来年一月七日ニ議会ヲ召集シ第三党タル進歩党スコトナク来年一月七日ニ議会ヲ召集シ第三党タル進歩党は同党ハ表面政権ヲ維持スレト議会開会迄ハ事実政権ノ帰信由党ハ表面政権ヲ維持スレト議会開会迄ハ事実政権ノ帰にマル状態ナリサレハ我移民問題ノ如キモ此政局不安定ノルマル状態ナリサレハ我移民問題ノ如キモ此政局不安定ノルマル状態ナリサレハ我移民問題ノ如キモ此政局不安定ノルマル状態ナリサレハ我移民問題ノ如キモ此政局不安定ノルマル状態ナリサレハ我移民問題ノ如キモ此政局不安定ノルアト推察セラル

而シテ来年一月召集ノ議会ニ於テ政府党ト進歩党ノ提携成

ナラムニ付其場合ニハ一時中絶セル移民問題ノ交渉ヲ再開シ来ルニ付其場合ニハ一時中絶セル移民問題ノ交渉ヲ再開シ来ルト共ニ議会ノ討議モ進行シ自然排日議員ノ活動始マルヘキ立シ下院ノ過半数ヲ占ムルニ至ラハ現政府ノ存続確定スル

本信写送付先 在英大使及在晚香坡領事右現下ノ成行及観測御参考迄ニ申進ス